

# まちづくり 提言書

令和8年2月16日

令和7年度水戸市市政モニター

# 目 次

まちづくり提言書について . . . . .	2
------------------------	---

## 【第1部】

私達が理想とするまちの姿 . . . . .	3
------------------------	---

## 【第2部】

理想のまちを実現するための課題と取組 . . .	42
--------------------------	----

## (資料)

出典・引用文献等 . . . . .	83
市政モニター活動内容 . . . . .	85
市政モニター名簿 . . . . .	87

# まちづくり提言書について

私たち市政モニターは、「水戸市が皆から選ばれるまちづくり」をテーマと定め、この1年間研究し、提言書としてまとめました。

この提言書は、初めにこれからも暮らしたいと思えるような、「私達が理想とするまちの姿」を描き、次に、「理想のまちを実現するための課題と取組」を挙げています。

理想とするまちの姿については、全国共通で大事な視点からの「妊活世代から孫活世代まで安心して暮らせるまち」、水戸市独自の視点からの「唯一無二の水戸」、水戸市を越える広域的な視点からの「誰もが輝く水戸」という3つの小テーマごとにまとめています。

私達が理想とするまちの姿は、次のとおりです。

## 妊活世代から孫活世代まで安心して暮らせるまち

【提言1】 活気ある教育を選択できるまち	4, 43
【提言2】 負担のない出産・子育てができるまち	6, 44
【提言3】 もう一人産めるまち	9, 48
【提言4】 すべての子育て世帯が過ごしやすい居場所があるまち	12, 51
【提言5】 まちごと家族のまち～頼れる人がそばにいる子育て～	14, 53
【提言6】 生涯活躍し続けられるまち	18, 55

## 唯一無二の水戸

【提言7】 地域コミュニティが相互作用しあうコンパクトな範囲でも暮らしやすい水戸	20, 57
【提言8】 どんな人でも動物や植物を身近に感じられる環境、動物も人間も過ごしやすい街「アニマルタウン」	23, 61
【提言9】 若者からの魅力度NO1のまち	25, 63
【提言10】 場所・人・お金が循環する水戸	27, 65
【提言11】 市民一人ひとりが推せるまちづくり～余白のある日常を、あなた色に～	29, 68

## 誰もが輝く水戸

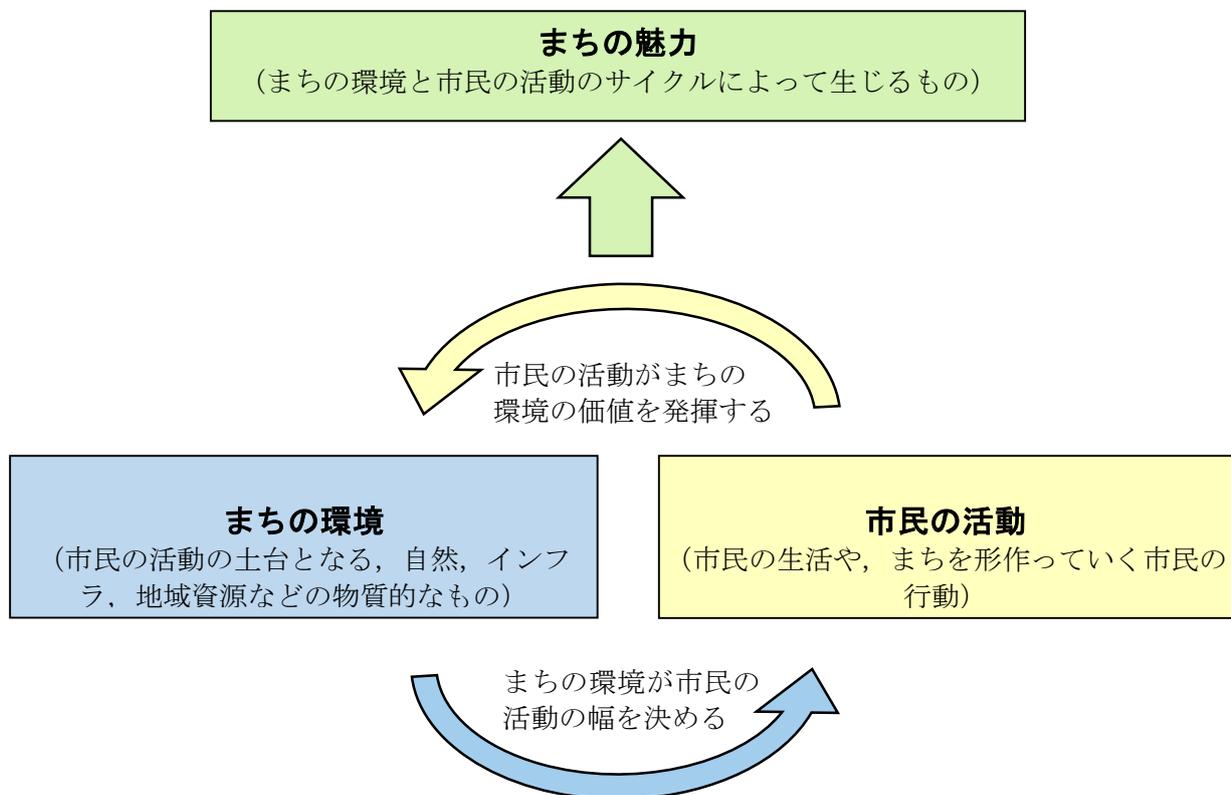
【提言12】 多様な仕事が充実し、達成感をえられるまち	32, 73
【提言13】 若者が住み続けたいと思えるまち	34, 75
【提言14】 誰もが主役になれるまち	36, 78
【提言15】 若者が定着しやすく活気がある街	38, 79
【提言16】 若者が住み続ける、帰ってくる水戸市	40, 81

## 【第1部】

# 私達が理想とするまちの姿

### 第1部の見方

本提言書では、社会全体を「まちの環境」（自然、インフラ、地域資源などの物質的なもの）と「市民の活動」（市民の生活や、まちを形作っていく市民の行動）の循環構造と捉え、その循環によって「まちの魅力」が生じるものとしています。これに従い、理想とするまちの姿を記載しています。



【提言1】 活気ある教育を選択できるまち



まちの環境について

私が理想とする水戸市は、千波湖、逆川、偕楽園をはじめとする自然豊かなまちのなかでこどもたちが自分の望む教育を受けることができるまちです。

このまちには、市内在住の子どもだけでなく、ひたちなか市、東海村、那珂市、常磐線水郡線沿いなどの近隣市町村のこどもも通いに来る、市を代表する国立・公立・私立の小中学校があります。駅周辺の中心市街地には、国立や公立の小・中学校があり、駅から離れた場所にある私立小中学校へは通いやすいように一般バスやスクールバスが走っています。

私立の学校では、STEAM 授業が充実しており、ホテルなどの生物やビオトープなどの生態系を研究するため、顕微鏡や地域に根付いた図書、PC、タブレットがあり、いつでも必要な時に調べることができるようになっていきます。

国立の学校では研究機関として最新・独自の教育方針によって、教科別担当制が行われています。

公立の学校では、小規模特認校（上大野小学校、柳河小学校、下大野小学校、大場小学校、国田義務教育学校）という特色のある学校もあり、その子の個性や興味に合わせて学校を選択できます。

これらの学校には食育の一環として、こどもた

ちが野菜を育てるための畑があります。

また、このような学校へ入学を希望している家庭に向けて、弘道館では入学前説明会が行われています。

市内には学校給食共同調理場があり、公立私立関係なく市内すべての小・中学校へ給食が配送されています。

・市民の活動について

このまちでは、子どもの興味や関心を大切にその子どもの得意なことや才能を伸ばすことを大切にしています。

例えば、私立の学校のこどもたちは、授業で千波湖や逆川、偕楽園などに出かけて生き物を採取し、生育環境を学んだり、生き物が生育しやすい環境を整えたりしています。

国立の学校のこどもたちは、教科ごとに担当の先生が分かれて授業を受けることができますので、より深い知識を学ぶことができます。

公立の小規模特認校のこどもたちは、ICT や英語など、自分の興味のある分野を集中して学んでいます。

市内の小・中学校に通うこどもたちは、市の学校給食共同調理場で作られた給食を食べています。この給食は、水戸市近隣で生産された野菜等

の作物を中心に献立が決められています。また、こどもたち自身が学校の課外授業によって畑で野菜を育て、収穫するなどの体験もしています。採れた野菜を給食の食材にも使うことで、こどもたちは農業職に関心をもち、地産地消の大切さを学んだり、農業生産者に感謝の気持ちを育んでいます。

未就学児がいる家庭など、これからどの小・中学校へ進むかを考えている家庭は、こどもが将来なりたい職業に合う学校や、興味のある課外活動が行われている学校、登下校やPTA活動などの学校のシステムの情報を入手するため、弘道館の広場で行われている入学前説明会に参加しています。各小・中学校ごとにブースが分かれていますので、参加者は興味のある学校のブースに行き、各学校の特徴などの説明を聞いています。事前に学校の情報を得ることで、入学前の不安を払拭しています。

これらのイベントは無料で入場ができ、場所も水戸市にゆかりのある場所で開かれているので気軽に参加することができます。

#### ・まちの魅力について

私が理想とする水戸市は、水戸市の小中学校に通学する全ての子ども達が自分が望む教育環境を選択でき、恵まれた環境で学習し、才能を育める環境が整っているまちです。

活気ある教育環境と、自然環境豊かな水戸市で育った子供たちは好奇心を持って学び、探究心を育み、多様な才能を開花させながら成長していくことができます。

そうして大人になったこどもたちが将来水戸の企業で働くことによって、企業の発展にも繋がっています。

また、公立私立関係なく市内すべての小・中学校に給食が提供されることで、こどもたちは新鮮な食材が使われた給食を食べることができます。あたたかい食事をあたたかいまま食べられることで、ほっと安心したり、人が作った食事の温かみや食への楽しさを感じています。また、こどもたちが自分で給食をよそいながらコミュニケー

ションをとることも楽しい経験になります。

事前の入学前説明会があることで、水戸にゆかりのない人々も水戸市の教育事情に触れることができ、安心して進路を選択することができます。

国公立だけでなく、私立の小中学校の教育環境も充実し、情報提供も行われることで、子どもの教育に関心が高い家庭が全国から転入してきます。

市外から通学する子ども達や転入者が増える事で若い世代の移住が増え、活気あふれる街になるので、皆から選ばれています。

このまちを実現するための課題と取組をP43に記載します。

【提言2】負担のない出産・子育てができるまち



・まちの環境について

私が理想とするまちは、出産から子育てまで負担がなく、2人目・3人目の出産も希望できるまちです。

このまちには、パパママともに子育てしやすい環境が充実しています。

まず、産後期から乳幼児期の期間の支援を一体化した子育て支援拠点施設があります。この施設は、1つの建物の中に、産後ケア、一時保育、病児保育を管轄するブースがあり、支援内容ごとにフロアが分かれています。ちょっと遊べる中庭やイベントに使える多目的室もあり、産後や子育てで困ったときはこの施設に来れば完結できるようになっています。

産後ケアのブースは、親族が近くに住んでいて産後も育児や家事の支援を受けられている人でも、育児に特に悩みがない人でも、希望するひとは誰でも利用できます。そこにはヨガやストレッチなどの運動ができるスペース、栄養バランスの良い出来たての食事を提供してもらえる食事スペース、日帰りだけでなく宿泊もできるようにベッドもあります。施設には助産師や調理師、栄養管理士などの専門の人が常駐しています。また、赤ちゃんの兄姉を預けられる託児スペースや赤ちゃんの父親も一緒に過ごせるスペースもあり

ます。施設は落ち着いた雰囲気で作られており、利用したい人がずっと入りやすいようになっています。

一時保育や病児保育専門のブースは、保育士や看護師が常時いて、こどものお昼寝用布団もあります。また、感染症のリスクを避けるため、病児保育ブースへ行くための出入り口や通路は別に設けられています。

この拠点施設は、市内中心部だけでなく郊外にもいくつもあり、遠出をしなくても近場で利用することができます。このほか、出産した産院で継続して産後ケアを受けたい人のために、出産から産後ケアまでを同じ産院で受けられる施設もあります。

また、こども連れで外出がしやすいように、市内の公園には、遊具に日除けが備え付けられ、広い駐車場があります。さらに少年の森公園のような大きい公園には、授乳室やおむつ交換台が整備されています。授乳室は防犯のため、夜間は施錠されています。

自宅で家事や育児を手伝ってもらいたいときには、ファミリーサポートセンターがあります。

子育て世帯の親たちが情報を収集したり、交流する場としては、みとっこアプリや、子育て支援拠点施設、市民センター、ショッピングモールや

京成百貨店の催事スペースがあります。

### ・市民の活動について

このまちの市民は、産後期から乳幼児期の間、必要に応じて以下のように子育て支援拠点施設を利用し過ごしています。

例えば、出産で弱った身体を回復させ、気持ちをリフレッシュしたい時には、産後ケアブースを利用し、保育士に赤ちゃんの兄姉を預けて、ヨガやストレッチをしたり、ヘッドスパやハンドケアをしてもらったりしています。また、宿泊もできるので、希望すれば赤ちゃんを助産師に預けて、お母さん、お父さんはゆっくり横になって眠ることもできます。

育児相談をしたい時には、共用の食事スペースで、赤ちゃんの月齢が近いほかのお母さんたちと一緒に食事をしながら、雑談も交えてお互いの育児の悩みを相談しています。また、助産師さんには父母ともに育児相談できたりマッサージをしてもらえる他、お母さんは母乳ケアもしてもらえます。

親自身の通院でこどもを預けたいときや、こどもが風邪でもどうしても仕事を休めない時には、一時保育や病児保育ブースを利用しています。これは、保育園のサービスの一部ではなく、こどもを預ける専門の場所なので、こどもを預かる枠が常に確保されており、利用したいときに申し込むことができます。

また、この施設は、健常児だけでなく医療ケア児等の支援が必要なこどもとその家族も利用しています。

こどもと公園へ出かけるときも、遊具に日除けがついているので、夏の暑い日でも公園で遊ばせることができます。駐車場も広く、授乳室やおむつ交換台もあるので、赤ちゃんを連れて出かけても困ることがありません。

移住してきた子育て世帯や核家族世帯など近くに頼れる親族がいない人は、家事や育児を手伝ってほしい時にファミリーサポートを利用しています。自宅から近い範囲内にサポーターがたくさんいるので、サポーターとの相性を選ぶことが

でき、相性の良いサポーターに継続して頼ることができます。

移住してきた子育て世帯や核家族の世帯は、市民センターの開放日や、子育て支援拠点施設やショッピングモールの催事スペース等で行われる、自分と同じ地区に住む子育て世帯との交流会に集まり、市内でこどもと遊びに行ける場所やイベントの情報、子育ての悩みなどの情報を共有しています。転勤などで水戸に居住することになった子育て世帯は、こどもを預ける保育園や幼稚園をどこにしたらいいか選択に困ることがありますが、ここに参加することでおすすめの園の情報や友達が通っている園などの情報を集めています。

妊娠から就学前までの子育てに関する各種支援やサービスを知りたいときには、みとっこアプリですぐ調べることができ、困ったときにどこの窓口へ相談すればいいか悩まずに済んでいます。

### ・まちの魅力について

このまちは、移住者や特に育児や家事の支援が必要のない家庭も含め、どんな環境の家庭であっても、産後から乳幼児期の子育て期間を安心して過ごすことができるまちです。

産後の心身が不安な時期でも、助産師に育児相談にのってもらったり、自分と同じ状況のほかのママさんとおしゃべりすることで、子育ての悩みを共有し不安な気持ちを減らすことができますので、子育てに対して前向きな気持ちを持つことができます。また、ケアを受けることで身体的にも癒やされるので、活動的な気持ちを持つことができ、遠出のお出かけにも行こうという気持ちになれます。

さらに、親が気持ちも穏やかになることで、赤ちゃんの兄姉にも余裕を持って接することができます。

一時保育や病児保育が充実しているので、急な予定が入ったときにもすぐこどもを預けることができ、こどもの看護のために仕事を休まずに済んでいます。

公園はこどもと来ても困らないように設備が整っているため、こども連れでもストレスなく遊

びに出かけられます。

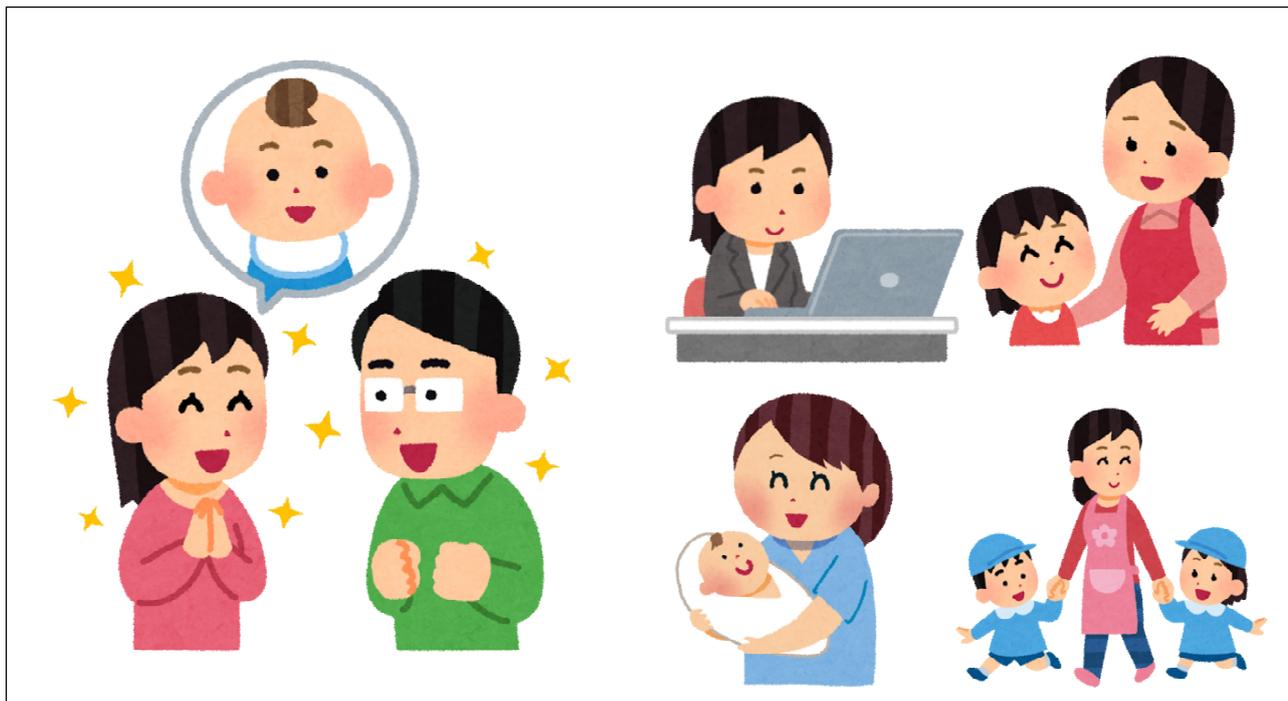
ファミリーサポートのサポーターが自宅周辺にたくさんいることで、サポーターと密にやりとりをすることができ、「少し手伝って欲しい」を気軽に叶えることができます。

移住してきた子育て世帯や核家族世帯も、自分と似たような家庭環境や家族構成で子育てしている世帯の人と情報共有しながら地域と自然に繋がれるので、子育てに心細さを感じることはありません。みとっこアプリも妊娠から就学前までの情報が一本化されて集約されているので、必要な情報や支援を探すときに迷うことはありません。

産後期から乳幼児期まで子育て世帯への継続した支援があることによって、「産後も気持ちが楽だから、もう1人産みたい」と思えるようになります。「このまちなら産後も無理をしないで安心して育児できる」、「水戸で子育てして良かった」と思えるので、皆から選ばれています。

このまちを実現するための課題と取組をP44に記載します。

【提言3】もう一人産めるまち



・まちの環境について

このまちは、出産時の不安が少なく、職場、園（保育園、幼稚園）、子育てを支援する環境といった複数の手を借りながらでこどもを育てられるまちである。

市内には高齢出産のトラブルにも対応できる総合病院や無痛分娩も可能な産婦人科が多くある。

幼児教育機関としては、広い園庭がある大きな園、施設も小さく少人数制で先生の目が届きやすい小規模な園、畑があったり生き物を飼育しているなど自然と触れあうことを重視している園、幼稚園から大学までエスカレーター式の園等があり、これらの園は延長保育や通園バスのサービスを提供している。

加えて、保育園や幼稚園のほか、認定保育園や無認可保育園も市内にたくさんあり、働いていない子育て中の家庭でも預けることができるほか、ファミリーサポートセンターや託児ボランティアなどのサポート体制もある。

こどもと一緒に遊べる場所としては、わんぱく・みとや植物公園、図書館といった低料金や無料で利用できる公共施設があるほか、大規模ショッピングモールには見守りスタッフが常駐している無料の屋内型遊具施設や、無料の遊具エリア

がある。

登下校中のこどもを見守る環境としては、スクールガードの制度がある。

経済環境としては、市内の中心部や郊外に、スーパーやお惣菜屋さん、服屋などの小売店や飲食店やクリニックなどの、夜勤ではない日中の勤務が中心で働ける職場が多数あり、赤ちゃんやこどもの服、幼児食を買えるお店やスーパーも市内各所にある。

・市民の活動について

このまちには大きい総合病院や、無痛分娩に対応している産婦人科がたくさんあることで、無痛分娩を選択できたり、高齢出産や持病などのハイリスク妊婦に対応できる総合病院を希望できるなど、どの病院でどんな出産をしたいかといった希望に従って産院を選ぶことができる。

市内の保育園や幼稚園は教育方針もさまざまで、親のライフスタイルや教育方針、こどもの性格に合った施設を選ぶことができる。

例えば、大人数で体を動かしわいわい遊ばせたい場合には広い園庭がある大規模な園に、人見知りや集団行動が苦手なので少人数でその子に合わせた活動ややりたい活動をじっくりやらせて

ほしい場合には小規模な園に、自然のなかでのびのび活動させたい場合には生き物の飼育や畑でサツマイモを育てて収穫するといった自然との触れあいに力を入れている園に、質の高い教育や早期からの専門教育を受けさせたい場合には一貫教育のもとエスカレーター式に進学できる園を選んでいる。これらの園では通園バスが提供されているため、園までの距離やマイカーの有無にかかわらず、こどもが通いたい、あるいは親が通わせたい園を選ぶことができる。

また、親が働いていて通常保育のお迎えの時間に間に合わないときは延長保育を利用したり、普段はマイカーで送迎している家庭が、仕事が休みの日には自宅まで通園バスにきてもらうなど、園が提供するサービスを有効活用している。

親が働いていない子育て中の家庭は、認定保育園や無認可保育園に預けて日常の家事や通院といった用事をこなしたり、休んだり、趣味をしたり一人になることでリフレッシュすることができる。また、子供も自宅以外の環境に行くことで対人関係を学べ、自宅以外の世界があることを学ぶことができる。

また、産休・育休中に親族にも頼れず保育園にこどもを預けられないときには、ファミリーサポートを利用できる。ファミリーサポートでこどもを預けている間に、親は体を休めたり洗濯や家の掃除などの家事を済ませることができる。

さらに、親の用事でこどもと一緒に出かけるときには、大規模ショッピングモールの無料の屋内遊具施設にいる見守りスタッフや、図書館にいる託児ボランティアにこどもを預けて、ゆっくり買い物をしたり本を選んだりしている。ショッピングモール内の無料屋内遊具エリアでは、未就学程度の子供が多少走れるほどのスペースがあり、小さな滑り台やクッションでできた大きめの積み木があり遊ぶことができる。周囲を囲むように柔らかいベンチが設置されており、下駄箱式で入場するため子供が一人で出ていかないよう工夫されている。体を動かしたい子供の気分転換をしたり、子に遊んでいてもらうことで親が休憩したいときにそこで遊ばせている。

こどもと遊び目的で出かけるときには、わんぱく・みと、植物公園、図書館に出かけている。

わんぱく・みとには乳幼児向けの遊具がそろっているため、年齢が近いこども同士で遊ばせたいときに利用している。小さいこどもだけが集まるので、年齢が大きいこどもとの事故やけがの心配がなく、親も安心して遊ばせることができている。

植物公園では、こどもと公園内の珍しい植物を見たり、季節ごとの景色を楽しんでいる。広い敷地や芝生の広場では歩いたり走ったり体をうごかして、疲れたらゆっくり休憩したり、お弁当の持ち込みをしてピクニックをしている。

図書館では親子で絵本の読み聞かせをしたり、気に入った絵本を借りて自宅で読んだり、読みたい本があれば市内のほかの図書館から取り寄せて最寄りの図書館で受け取ったりしている。

中でも、図書館では、託児サービスを兼ねて、こどもが好きな高齢者サークルによる絵本の読み聞かせや紙芝居などのお話会、保育士による折り紙やコマ作りなどのものづくり教室が開催されているので、これらのイベントにこどもが参加している間、親は自分の本を選んだり、雑誌を読んだりして過ごしている。未就学児で決まった預け先がまだないこどもを持つ母親はこの間短時間でも一人になる時間ができるので、ほかのこどもや保護者、保育士と話しをすることができている。

小学生の登下校の時間には、近所に住む高齢者がボランティアでスクールガードをしてくれて、交通量の多い道沿いや横断歩道付近で親の代わりに見守りをしてくれている。

このまちの市民は子育て世帯が働くことに理解があるので、このまちに住む子育て中の人は自分の働き方で働いている。

例えば、小さいこどもや複数のこどもを養育している人、持病・体力的な問題がある人は、日中の短時間勤務や少ない出勤数にしたり、こどもを幼稚園や保育園に送ってから迎えに行くまでの決まった時間に働いている。また、夫が仕事を休めなくても妻が休みを取りやすい職場で働いて

いるので、こどもが病気の時や幼稚園や保育園の行事があるときに休むことができている。

スーパーやこども用品を扱っているお店も市内全体にあるので、このまちの人々は徒歩やバスで買い物に出かけ、必要な物をすぐ手に入れることができている。

#### ・まちの魅力について

このまちは赤ちゃんから高齢者まで幅広い年齢層の人が多く住んでおり、お店や職場へのアクセスも良く、利便性が良い。

高齢出産に臨む人も妊娠期のトラブルに対応できる病院があるので、水戸で安心して産み、こどもを育てている。自然分娩か無痛分娩かだけでなく、医師との相性、母体や新生児になにかあった際対応できる総合病院での出産など複数の条件を選択肢に含めて検討でき、自分が望む出産、不安のない出産をすることができている。

産後働きたいという場合には、子育てしながらでも働きやすい職場が多くあるのと同時に、親の教育方針やライフスタイル、こどもの性格に合う保育園や幼稚園の選択肢がたくさんあるので、こどもに合っていてかつ親も無理なく働けるといいう両方を叶えることができ、どちらかを諦めなければいけないということがない。

親はこどもをどう育てていきたいか自分が納得した園に入れられることができ、こどもも自分に合った環境の保育園や幼稚園で過ごせるので、親も子も将来の目標に向かって進んでいくことができる。

こどもを預けられる場所としては、ファミリーサポートのほか図書館やショッピングモールの中にも託児サービスがあるので、こどもを預けている間に親は息抜きや気分転換ができ、一对一の育児中も孤独感、負担感を軽減できる。

このようにこのまちは、気持ちに余裕を持って出産、子育てができ、余裕があることで、もう1人産みたいという希望を持てるまちであるので、皆から選ばれている。

このまちを実現するための課題と取組をP48に記載します。

【提言4】すべての子育て世帯が過ごしやすい居場所があるまち



・まちの環境について

私にとっての理想のまちは、障害や難病の有無に関わらず、未就学児や小学生の子どもやその養育者が安心して過ごせるような居場所が身近に存在し、無料もしくは安価で利用できる。

例えば、屋内で遊べる場所としては、わんぱく・みとやはみんぐぱく・みと、いきいき交流センターあかしあなどの子育て支援センター、市内小中学校の体育館、リリーアリーナ MITO がある。これらの施設は空調もあり、中には公園のような広いスペースを持つ場所もある。土日祝日のほか、夏休み、冬休みといった長期休暇中でも個人にも開放されている。屋外で遊べる場所としては、森林公園や少年の森、四季の原などがある。

各地区に存在する市民センターには子どもスペースがある。子どもが走り回れる広さがあり、滑り台やジャングルジムなどの室内遊具が常時置かれ自由に使えるようになっている。また、玩具の施設内貸出も行われている。

さらに、個人で予約して利用できる個室スペースもある。ゆっくり座って話せる和室や、ちょっとした調理や食事を楽しめるキッチンやダイニングテーブル等がある部屋のほか、机等の備品を何も置いていない土足厳禁のカーペット敷きの部屋もある。そのほか、市民センターには子育て

広場事業として託児サービスがあり、子どもを預かるための部屋がある。

教育や福祉施設としては、幼稚園・保育園・小中学校（義務教育学校含む）・高等学校・大学などが公立・私立問わず市内に多数存在している。さらに、茨城県立の水戸特別支援学校・内原特別支援学校・水戸飯富特別支援学校・盲学校・水戸聾学校があるほか、公立の小中学校の各校にも特別支援学級が設置され、在籍児童・生徒数は全国的にも増加傾向である。

医療施設としては、茨城県立子ども病院・愛正会記念茨城福祉医療センターなど小児の難病や障害を対象とした大病院が近隣自治体と比べ、水戸市内には多く存在している。

・市民の活動について

このまちの子育て世帯は、土日祝日や長期休暇中には子育て支援センターや体育館へ遊びに出かけている。広々とした室内で気候や他人の目を気にすることなく、くるくる走り回ったり、のびのびと体を動かしたり、ボール遊びをしている。広々としつつも屋外と違って壁があるので、子どもが遠くに行きすぎてしまう心配もない。

一方で、気候が良いときは、森林公園や少年の森、四季の原などの広々とした屋外空間へ遊びに

出かけている。

気温が高くなってきたときや急な雨などで外で遊べなくなってしまったときには、市民センターのこどもスペースに立ち寄り遊んでいる。常時遊具が置いてあるので、ふらっと寄っても遊ぶことができる。さらに、おもちゃの施設内貸出しもあるので、こどもが家のおもちゃに遊び飽きてしまったときや、こどもの年齢や発達によっておもちゃの買い換えを検討するときなど、必要な際に寄って貸出しを利用し、おもちゃの試し遊びをしている。

市民センターの個室スペースは、利用する人が自分のニーズに合わせて部屋を選んでいる。障害や病気の程度によって、大勢の人がいるところが苦手だったり、友だちの家に遊びに行ったりするのが難しいときには、個室スペースに友人家族とこどもを交えて集まり、ゆっくり座って過ごしたりしている。キッチン設備のある部屋では、友人同士で料理を作って食事を楽しんだりしている。こどもが部屋の備品を触って壊したりけがしたりするのが心配なときは、自宅からおもちゃや食べ物を持ちよって、備品が何も置いていない部屋を利用している。養育者はこどもを気にして付いて回る必要が無いので、安心して語らいができ、こどもは養育者に注意されずに済むので自由に遊んで過ごすことができる。

また、子育て支援センターには、こどもの年齢ごとに利用日が区切られている日も設けられている。その日はこどもの年齢に近い養育者が集まり、同じ境遇の養育者同士が出会ったり、共通の子育ての話などをして交流している。同じ学区内の子育て世帯が集まり交流するイベントも多く行われている。

養育者が自分の病院に行くときや、家具屋・駅ビルでの買い物などこどもが飽きてしまうような大人の用事で出かけるときは、各市民センターにある託児サービスにこどもを預けている。この託児サービスは安価で預けることができ、市LINEから予約をすることができる。事前予約枠と当日受付枠があるので、当日急に利用したいときにも申し込むことができる。託児ボランティア

はその地域の人が担当しているので、自分のこどもを知らない人に預けることへの不安に悩まずに済んでいる。

#### ・まちの魅力について

このまちは、子育て世帯が気軽に立ち寄れる居場所があるまちである。

土日祝日や長期休暇など、こどもの保育園や小学校が休みの時に、子育て支援センターや体育館、市民センターが開放され個人単位でも利用できることで、こどもの遊び場に悩むことなく養育者は安心してこどもを遊ばせることができる。また、市民センターには個室スペースもあるので、周りの目を気にせず過ごすこともできる。

また、自分のこどもと歳が近いこどもを持つ養育者と出会える場があることで、子育てによる閉塞感や孤独感を感じることなく安心して過ごすことができる。

各市民センターに託児サービスがあることで、養育者も病院受診を我慢せずに済み、買い物に行った際もこどもの機嫌に左右されることなく必要な物をゆっくり選ぶことができている。託児サービスはLINEから気軽に利用申込ができるうえ、託児ボランティアが地域の人という親近感もあるので、この人なら預けても大丈夫だと思えて、安心して利用することができる。

このように、子育て世帯がほっとできるまちなので、皆から選ばれている。

このまちを実現するための課題と取組をP51に記載します。

【提言5】まちごと家族のまち～頼れる人がそばにいる子育て～



・まちの環境について

このまちは、転入者など地域のコミュニティとの関係が薄い子育て世帯や、出産から育児期に近くに親族がいない人でも、安心して暮らすことができるまちである。

このまちには、困ったときに気軽に頼れる人と人のつながりを支える仕組みがある。

その一つとして、市のLINEのほか、図書館、わんぱーく・みとやはみんぐぱーく・みと、保育園などの子育て施設といった地域拠点を通じて相談できる子育て・地域つなぎコンシェルジュがいる。(詳細は後述のとおり)

コンシェルジュは、子どもと関わりたい高齢者、水戸に長く住み、地域のことに詳しい人、子育て支援や地域サービスに精通した人などが担い、オンラインと対面の両方で市民とつながることができる。

オンライン相談としては、LINEからコンシェルジュに相談したい日時の手配をとることができ、予約した日時に、コンシェルジュとビデオ通話で相談ができる。

対面相談としては、LINEで事前に予約をして、わんぱーく・みとなどの地域拠点でコンシェルジュと直接対面して相談することができる。

また、子育て支援センターではコンシェルジュ

と若い世代の接点として、プレママ教室や赤ちゃんとのふれあい体験が行われている。

・市民の活動について

このまちの子育て世帯は、日常のちょっとした困りごとや不安を、上記の手段によって気軽にコンシェルジュへ相談している。特に、こどもが小さい時期など子連れで出かけるのはハードルが高いときにはオンラインでの相談を利用している。

相談内容に応じて、適切な支援制度やサービスにつながるができるほか、「話を聞いてもらうだけ」でも安心感や信頼関係が生まれ、本音を話しやすい雰囲気が育まれている。

また、コンシェルジュは相談を受けるだけでなく、お節介な関わりを通じて相談者と子育て支援サービスをつなぐ役割も果たしている。例えば、把握している相談内容を踏まえ、困っている人たちの手助けになるように「こういう相談をしてきた人がいるので、他の施設にも共有しておくね」や「こういう相談が出ていたからこういう案内を出すといいよ」といった具合に、必要に応じて子育て世帯と地域拠点の職員をつないでいる。

こうしたコンシェルジュのお節介によって必要な情報にきづくことができ、このまちの子育て

世帯は悩みを抱え込まずに済んでいる。若い世代も、プレママ教室や赤ちゃんとのふれあい体験などを通じて、結婚や出産の前段階からコンシェルジュと接点を持つことができる。出産期、育児期...とライフステージが変わっても顔なじみの関係が続いているので、安心して頼ることができている。

#### ・まちの魅力について

転入などにより地域との関係が薄い子育て世帯や、近くに親族がいない家庭でも、このまちには「相談すれば大丈夫」と思える人がいる。

コンシェルジュと市民がつながることで、安心感や信頼感が生まれ、まち全体が家族のような関係性となり、あたたかい雰囲気が生まれている。特に、直接対面しなくても声色が伝わったり「私もあなたと同じだよ」といったことが伝わるような、人と人の心理的なつながりがある、現代の「顔の見えるつながり」が特徴である。

また、お節介を受けた人が「次は自分も誰かの力になりたい」と思うようになり、助け合いの気持ち循環している。

このように、まち全体で支え合える環境があることが、水戸市が皆から選ばれる理由となっている。

このまちを実現するための課題と取組をP53に記載します。

【子育て・地域つなぎコンシェルジュについて】

1 コンシェルジュの基本役割

<p>(1) “聞く人”としての役割（一次相談）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の困りごとや不安を評価せずに受け止める</li> <li>・「制度の説明」だけでなく，気持ちや背景を聞く</li> <li>・緊急性・専門性の判断（どこにつなぐべきかの初期整理）</li> </ul>	<p>(2) “つなぐ人”としての役割（橋渡し）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談者を適切な窓口・施設・支援・人につなぐ</li> <li>・必要に応じて，施設職員や担当課へ連絡・共有（本人同意を前提）</li> <li>・単なる紹介で終わらせず，「つながったか」を確認する</li> </ul>
<p>(3) “気づく人”としての役割（お節介・見守り）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館・わんぱーく・はみんぐぱーく等での様子を観察し，困っていそうな人にさりげなく声をかける</li> <li>・相談を待つだけでなく，アウトリーチ（出向く支援）を行う</li> <li>・地域のニーズや課題を市にフィードバックする</li> </ul>	<p>(4) “関係を育てる人”としての役割（継続的伴走）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談を一度きりで終わらせず，必要に応じて継続的に関わる</li> <li>・顔なじみの関係をつくり，孤立を予防する</li> <li>・プレママ教室・ふれあい体験などの場での関係づくりに参加する</li> </ul>

2 コンシェルジュの関わり方

<p>A) 受動型（来た人に対応）</p>	<p>対面相談（図書館・わんぱーく等） ビデオ通話相談（LINE 予約 → ビデオ通話） 電話相談（希望者のみ）</p>
<p>B) 能動型（自ら声をかける）</p>	<p>施設内で困っている様子の人に「何かお困りですか？」と声かけ 子ども連れで大変そうな人へのさりげないサポート案内 長時間孤立している人への気づきの声かけ</p>
<p>C) つなぎ型（裏方支援）</p>	<p>相談内容を本人同意のもと関係機関と共有 施設職員・保育園・保健センター等との連携 必要に応じて訪問型支援へつなぐ</p>

3 コンシェルジュの対応範囲（できること／できないこと）

できること	できないこと
<p>子育て相談の一次対応 制度案内・窓口紹介 施設間の連携調整 見守り・声かけ 市への課題フィードバック</p>	<p>医療判断 法的判断 金銭のやり取り 個人情報の無断共有 緊急対応（→専門機関へつなぐ）</p>

#### 4 個人情報の取扱い

取扱いについては、本人同意を前提とし、必要に応じて関係機関と情報連携する。

#### 5 人材確保・育成

コンシェルジュは公募とし、研修（傾聴・個人情報・子育て支援・福祉制度）を実施する。併せて、定期的なスキルアップ研修も行う。

研修では、コンシェルジュは相談を待つだけでなく、地域の様子に応じて声をかけるなど、見守りや気づきの役割も担うことの意識づけを行う。また、お節介を受けた人が「次は支える側」になりたくなるように、啓発活動を行う。

#### 6 連携体制の構築

図書館・わんぱく・保健センター・保育園との連携協定を結び、本人同意を前提とした相談情報の共有を行う。

#### 8 評価・改善

市は利用者アンケートの実施・課題の集約と制度改善・年次レポートの公表を行う。

【提言6】生涯活躍し続けられるまち



・まちの環境について

私の理想とする水戸市は「夢を実現する環境が整っているまち」です。子育てがひと段落した世代や、仕事をリタイヤして時間ができた世代が、「夢をかなえたい」と思ったときに年齢や環境のせいであきらめなくていいまちです。

このまちには、さまざまな用途に応じて誰でも使える便利な施設が市内に複数（学区ごとに1か所以上）あります。

この施設には、次のような設備が備わっている多目的の大きなホールがあります。設備の例としては、飲食店をできるように水道やガスなどのキッチン設備や寸胴などの特殊な調理器具、小さな子どもが走り回ったり大人がダンスができるような防音設備や音響設備、フローリングの床、鏡張りの壁、将棋・オセロなどのボードゲーム大会や絵画の個展を開催できるような机やイス、作品が見やすいライトなどです。また、このホールは、ローラースケートやミニ四駆などの競技を行えるように床や壁に傷がついても大丈夫な造りになっています。

これらは、現在使われていない空き家や倉庫をリノベーションし、誰でも使えるように管理されています。利用したい人は登録と予約さえすれば1日単位で自由に利用することができます。

また、この施設には常設施設として「小学生の緊急下校先施設」が併設されています。この施設は、こどもが、親自身の通院など緊急の理由で帰宅や迎えが間に合わないなど放課後一時的に居場所が必要になったときに親の帰りを待つことができる施設です。

・市民の活動について

このまちでは、子育てがひと段落した世代や仕事をリタイヤした世代が、やってみたいことに挑戦できるまちです。

例えば、飲食店やダンススタジオなどを開店したいがいきなり実店舗を持つのは不安な人は、1週間や数日間の期間で間借りをして、この施設でお試し開店をしています。キッチン設備や特殊な調理器具、防音設備や音響設備など費用面で負担の大きいものは備え付けてあるので、食材やお皿など用意しやすいものを持ち込んですぐ開店し、自分の夢を実現できるかどうか挑戦しています。

また、水戸は都内から2時間あれば来ることができるので、東京で平日働いている人が土日だけ水戸に来てお試しでお店を開いていることもあります。それがきっかけで水戸でやってみたい仕事を見つけて移住してくる人もいます。

保育士の資格を持っている人は、市内の学校で

運動会などがあるときに保育・学童の施設に集まり、保護者が運動会等に参加している間、赤ちゃんや幼児を預かっています。

ボードゲームや絵画、ハンドメイドが趣味の人は、それぞれ好きな人たちが集まってイベントや個展を開催しています。

ローラースケートやミニ四駆が好きな人は、年齢に関係なく大人数で好きな物同士で集まり、床の傷などを気にせずに思い切り競技をしています。

また、働きたいけど、こどもが学校に行っている間だけなど時間が限られている人や、高齢のため働ける場所がない人も、お試し開店している人のお店や競技大会のスタッフ、「緊急下校先施設」でこどもの見守りとして、隙間時間や自分の好きなタイミングにアルバイトやパートで働いています。「緊急下校先施設」には、学童に入っておらず親がどうしても下校時間に間に合わないけど親の帰りを待つ場所がないというこどもがやってくるので、一時的にこどもを預かり見守るスタッフとして働いています。

#### ・まちの魅力について

このまちは、自分の夢を実現するために興味・関心のあることに打ち込むことができ、それによって他の誰でもない「自分という個人」を表現して、社会とのつながりを強く感じることができるまちです。特にこれは「仕事」によって形になります。

一方、仕事をするにあたっては、結婚や出産、子育て、年齢等によって満身に働くことができなくなる場合があります。しかし、このまちではそうした問題に対応し、自分に合った働き方で働ける様々な工夫がされています。

そのため、水戸なら自分のやりたいことができ、雇用主としても雇用される側としても一生涯生き生きと活躍し続けることができます。

つまり、年齢や環境に関係なく、自らの夢を追い求めて社会と繋がれる、本当の自由があるまちなので、皆から選ばれています。

【提言7】地域コミュニティが相互作用しあうコンパクトな範囲でも暮らしやすい水戸



・まちの環境について

私が理想とするまちは、それぞれの地域コミュニティが活性化し他の地域コミュニティとも相互影響し合うコンパクトな生活ができるまちである。水戸市の地域コミュニティは、34の地区会、約1300の町内会・自治会、約6400の班及び加入世帯で構成され、コミュニティに属する市民も赤ちゃんから高齢者まで多世代に渡っている。

この地域コミュニティの活動を支える場所として主に市民センターや市民会館があり、市民センターは地区会の数に対応して34ヶ所に設置されている。市民センターは地域コミュニティ活動に参加したい人たちが誰でも気軽に利用できると共に、水戸に移住して新たに活動したい人や定年退職後の趣味活動、子育て世代の人が子どもを預けながら仕事をしたり仲間づくりをするなど、それぞれの世代の人のチャレンジを応援するための機能を備えている。

市民センターの主な機能としては、窓口業務や災害時の防災拠点のほか、生涯学習講座やサークル団体の活動拠点、地域コミュニティの活動を支援する場になっている。各市民センターは、その機能を果たせるように、次のような設備を有している。例えば、大きいホールの部屋があり、普段

は生涯学習講座やサークル団体の活動等に使用されているが、災害時には避難者の居住空間や備品の保管場所としても使うことができる。多目的室は、床張りになっていて、卓球台や室内テニス用のネット、筋トレ器具、ヨガマットなどの運動器具が置いてある。茶道などのサークルのために和室もあり、給湯設備や茶道具などが置いてある。サークル活動での料理教室や、カフェ営業やチャレンジショップなどをやってみたい人が調理できるように調理室もある。図書コーナーは、古い本だけではなく、絵本や実用書、学習用参考書など、それぞれの施設で利用者からニーズのある本が置かれている。移住者向けの案内や街のイベントをアナウンスするコーナーとして、デジタルサイネージが設置されている。また、小さな子どもが気軽に遊べる屋内の遊具スペースや授乳室もある。

さらに、地域の人が活動する内容や場所のニーズに合わせて、中高生向けの学習スペース、テーブルとイスが常設されたフリーのカフェスペースもある。

市民センターは、訪れる人の世代に合わせた案内を行うコンシェルジュのような機能もある。もともとその地域に住んでいる人だけが活用する場所として機能するだけでなく、若い人や移住し

てきた人が活用しやすい場所として市民センターが地域コミュニティをつなぐ仲介の役割もしている。マンションが多い地区など町内会がない地区には、これらの市民センターの機能について周知する掲示板がある。

水戸市の市民センターは小学校区単位で設置（「1小学校区に1市民センター」）という方式を取っているため、歩いて行ける距離にあり、地域ごとのアクセス性が比較的高い。

そのほか、各地区には他県や海外から来た人が入居や宿泊しやすい居住施設（シェアハウスやゲストハウス）がある。

また、水戸市の中心市街地には、図書館や芸術館といった文化的な施設、弘道館や歴史館、千波湖、偕楽園といった歴史的な建物や緑あふれる場所がある。市民会館も中心市街地にあり、市民センターと同様の機能を備えているほか、他県や海外の人向けの催し、企業向けイベント、大規模な市民向けイベントなど、コンパクトな機能だけではない多様な関わりを生み出す場としても機能している。

中心市街地は、その他地域のコミュニティの人が交わり合う機会や場としてちょうどいい距離感になっており、車以外でも移動できるように、バスや電車などの公共交通機関やその他の公共交通手段などで地域コミュニティと中心市街地が結ばれている。

## ・市民の活動について

もともと住んでいる地域コミュニティの住人は、各地区の町内会に加入しており、お祭りや運動会、清掃活動、防災訓練、緑化推進活動、子どもや高齢者の見守り活動、防犯活動、回覧板や広報みとの配布、行政への連絡調整、意見要望のとりまとめなどを行っている。地域の人はいこれらの各種活動に参加したり、昔ながらのお祭りなどの行事の手伝いをするなどでそのまちの歴史や人を知ったりしている。

マンションが多い地区など町内会として機能していない地域コミュニティに住む人は、マンションの掲示板によって、地域にある市民センター

の場所や市民センターの機能について情報を得ている。地域の活動に参加したり、地域とつながりたいときは、市民センターにあるアナウンスコーナーで情報を得ている。

他県から移住してきてその地域で住む場所を探している人や、賃貸住宅を借りるのが難しい外国人は、各地区にあるシェアハウスやゲストハウスで暮らしている。シェアハウスやゲストハウスにはオーナーやホストファミリーがいて、移住者に市民センターがあることを案内したり、もともと住んでいる人たちとつながれるように支援している。また、地域コミュニティに交わりやすくなるようなイベント（ためしもいちのような企画）を行うことで地域に馴染むことができる。

子育て世帯は、子どもをちょっと遊ばせたい時は、市民センターにある屋内の遊びスペースを利用している。屋内の施設なので夏の暑さや虫刺されの心配もなく、走り回ったり、積み木やボール遊び、トランポリンなど、体を動かす遊びをして過ごしている。

本を読みたいときには市民センターにある図書コーナーを利用している。県立や市立の図書館と連携しているので、図書館で借りた本をそこから返却したりもしている。

中高生は市民センターにある学習スペースで勉強して過ごしている。

子ども食堂などの運営や活動をやってみたいNPO団体や、カフェのお店を経営してみたい人は、市民センターにある調理室やカフェスペースを利用して、お試し運営やお店を開店できるかどうかチャレンジしている。

そのほかのライフスタイルとしては、中心市街地にある県立図書館の広場で体操をしたり、芸術館で行われるイベントに参加したり、千波湖でランニングをしたりもしている。水戸市民会館では自分の好きなアーティストの公演に行き、友人と一緒に参加して休みを満喫している。親子は、中心市街地の広場で行われている子ども向けイベントやマルシェに出かけ、子どもも大人も両方楽しむ1日を過ごしている。地域活性化のために自分も活動してみたいという方は水戸まちなかり

ピング作戦に参加して、積極的に意見を出したり行動している。これらの活動は、街に住むさまざまな地域の方であっても公共交通機関が充実しており距離的に均等に近いところにあるので、行きたいときに行くことができている。

#### ・まちの魅力について

このまちは、自分が住んでいる地域の人々と支え合いながらコンパクトな範囲でも暮らしを楽しみながらやりたいことに挑戦できるまちである。

市民センターを始めとした場所での地域コミュニティの活動を通して、若者や高齢者、核家族、移住者が仲良くなったり元気になったり助け合ったりなどの交流が生まれている。

さらに近場には、自分の好きな文化活動ができる場所や歴史的な場所があるので、ひとびとはまちに親しみを持つことができている。まちなかには緑あふれる環境が充実していることで、四季を感じながら歩いてみたいと思え、ほっとすることができる。

市民センターを核にしてそれぞれ自分が住む地域コミュニティがあり、それらは中心市街地があることで、他地域コミュニティとの交流の場になっている。

車を使わなくても良い範囲で各地域コミュニティと中心市街地は結びついているので、環境問題への取り組みをしている街としてPRでき、車を保持していなくても住みやすい街となっている。

このように、元々住んでいる多世代の人や移住者にも馴染みやすくコンパクトな範囲でも楽しみながら暮らしやすいまちなので、皆から選ばれている。

このまちを実現するための課題と取組をP57に記載します。

【提言8】どんな人でも動物や植物を身近に感じられる環境  
動物も人間も過ごしやすい街「アニマルタウン」



・まちの環境について

茨城県には複数の植物園や動物園があり、水戸市も植物や動物を身近に感じられる環境が整っているまちである。

例えば、市内には日本3大庭園にも認められている偕楽園をはじめ、千波湖や保和苑があり、ここでは野生の白鳥やハト、鯉などの生き物が生息しているほか、千波湖では広大な敷地を活かしたドッグランもある。

水戸市民会館を含めた京成百貨店・水戸芸術館のMitorio(ミトリオ)では動物を自然に近い環境で見られる屋内型ふれあいパークがある。ここでは、うさぎ、やぎ、へび、リス、クジャク、キジ、鷹などの小型から中型の動物が飼育されており、その動物に合わせて、小さな小屋や隠れ家があったり、地面に藁が敷き詰められていたり、木の枝などが置かれていて、その動物が比較的過ごしやすい環境が再現されている。展示されている動物は通年常設ではなく、数種類ずつ決まった期間で入れ替わっている。動物と触れ合えたり、餌やりができる体験コーナーもある。

一方で、コロナ渦を経てペットブームにはさらに拍車がかかっており、動物病院は全国で13,000院ほどある。茨城県にも数多くの動物病院があり、市や県の動物愛護センターなどの公営施設があ

る。動物病院は市中心部だけでなく市境にもある。それぞれの動物病院には、市民が保護してきた犬や猫を預かれるように、保護犬猫専用キャリーやケージが備わっており、野生環境下での生活によって生じる体内外寄生虫のリスクや感染症などの被害が他の動物へ拡大することを防げるようになっている。

・市民の活動について

このまちの人々は、様々な事情で動物を飼育できない人も含め、植物や動物と日常的に触れながら過ごしている。

学生から40代くらいの若者は千波湖に生息するきれいな植物や生き物の写真を撮ってSNSに投稿している。高齢者は千波湖や偕楽園といった自然の中で散歩したりランニングなどの軽い運動をしたりして過ごしている。ペットを飼っている人は、犬の散歩がてら千波湖を一周したり、ドッグランを利用している飼い主同士で共通の話題で交流している。

Mitorio(ミトリオ)にあるふれあいパークには親子や小学生のこども同士で遊びに来ている。展示されている動物を見たり、動物に直接触れたり、餌やり、鷹匠体験などのふれあい体験をしている。展示されている動物も一定期間ごとに入れ替わ

るので、人々は新しい動物を見るために繰り返し訪れている。Mitorio(ミトリオ)は水戸駅からのバスも走っていてアクセスも良いので、イベントに来たついでに水戸駅や百貨店で買い物したり、水戸芸術館で芸術鑑賞をしたりしている。

一方で、保護すべき犬や猫を見つけたときにはすぐに動物病院を頼ることができている。動物病院は市民とボランティア団体の仲介役となり、ボランティア団体は保護犬や保護猫を飼いたい人へ繋いでくれるので、このまちでは、単身者から夫婦、様々な事情でこどもをあきらめざるをえない家庭、動物が好きな家族、戸建てを建てたきっかけに動物を迎え入れる家庭など様々な家庭で、保護犬や保護猫を家族の一員としてお迎えしている。

また、犬や猫の保護活動をしている民間のボランティア団体などがあり、ボランティア団体は動物病院と連携している。例えば、市民が動物病院へ届けた保護犬や保護猫が新たな飼い主に引き取られるまでの世話をしている。また、一人一人の市民も、捨て犬・捨て猫を見て見ぬふりすることなく保護したり、動物病院へ届けたりしている。

#### ・まちの魅力について

このまちの人々は、日常的に人以外の動植物を身近に感じていることで、気持ちをリフレッシュしたり、不安感・ストレス・緊張感などを和らげることができている。

千波湖や偕楽園では豊かな自然やそこに生息する生き物を見ることができるので、リラックスしたり癒やされている。さらにドッグランがあるので、普段偕楽園や千波湖に来たことがない人が来るきっかけにもなり、訪れる楽しみにもなっている。

こどもたちは、動物とふれあうことによって、レアな生き物について親子で話し合う機会が増え、お父さんやお母さんと一緒に学んだという楽しい思い出を作ることができている。たとえ様々な事情で動物を飼育できないひとや家庭であってもふれあいパークがあるので動物を身近に

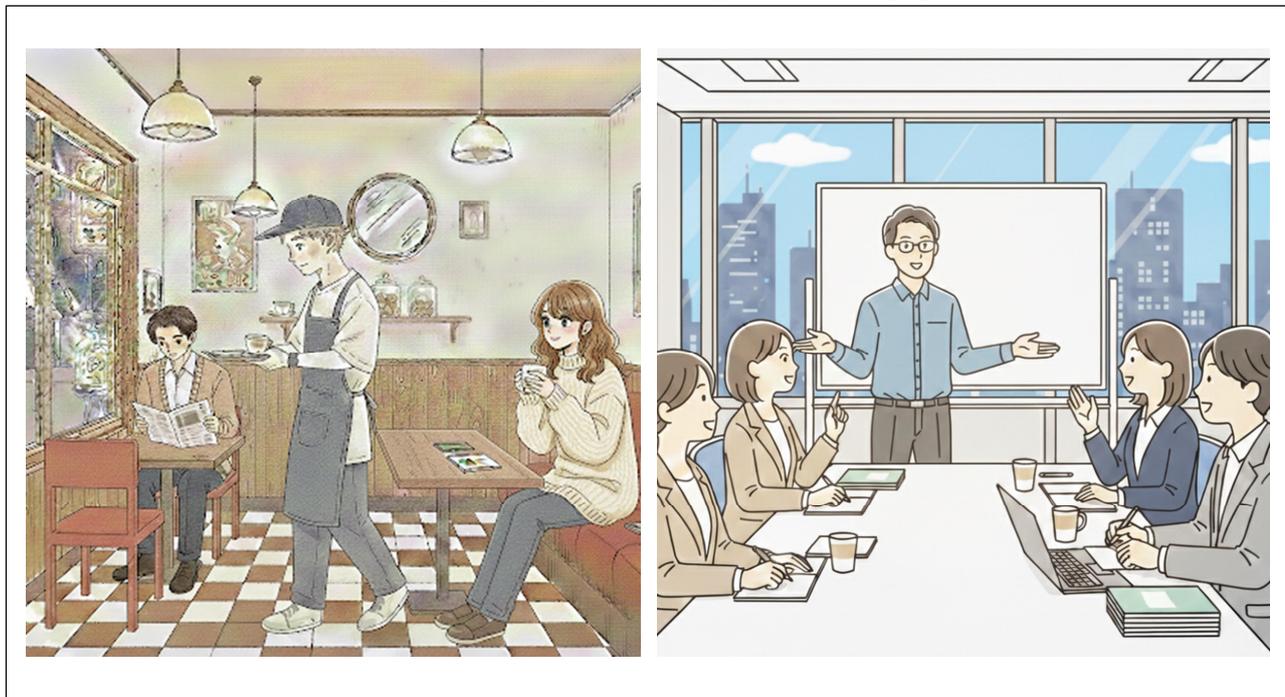
感じ楽しむことができている。動物とのふれあいは好奇心や感受性の成長や発達に大きく貢献してくれるため、人間だけではできない教育の1つにもなっている。

さらに、このまちには、皆で動物を守る愛護の気持ちもあふれている。たとえば犬や猫を様々な要因で育てることができないために捨て犬・捨て猫を保護することに抵抗があっても、近くの動物病院に連れて行けば連携しているボランティア団体に保護犬や保護猫を受け渡していける支援体制があるため、命のバトンを繋ぐことができている。それにより、悲しい連鎖を断ち切ることができている。

このまちでは、人々は生き物への愛着の気持ちをもっており、人間と動植物が共存しやすいことが魅力となっているので、皆から選ばれている。

このまちを実現するための課題と取組をP61に記載します。

【提言9】若者からの魅力度NO1のまち



・まちの環境について

私が理想とするまちは、歴史や文化といった古いものも大切にしつつ、若者（高校卒業後から大学卒業後くらい）が住みたくなるような新しいものも受け入れているまちです。このまちでは、若者が収入を得ながら住むことができる経済・住宅環境があります。

経済環境として、水戸には、偕楽園や好文亭など昔から守ってきた歴史や文化、駅北の商店街などの街並みがあります。そして、昔からあるそば屋さんなどの飲食店、おだんご屋さんなどの和菓子屋、金物屋など、歴史や伝統を守ってきたお店があります。そこではもともとのお店の歴史を感じられるように古風な壁や窓枠などを残しつつも、若者が好むように、飲食スペースは現代的な造りになっているなど今風なおしゃれさも取り入れられています。また、若者が働いている姿がお客さんや観光客に見えるように、店舗は比較的小さい造りになっていたり、オープンキッチンの設備があります。

一方で住宅環境としては、水戸で働く若者が市内で生活できるように、空き家がリノベーションされ住めるようになっています。

・市民の活動について

このまちの若者は、古くからあるお店にも若者が好むような現代的なおしゃれさも取り入れられていることによって、そのお店に興味を持ち働いてみたいと思い、就職しています。そこでお店の伝統や技術を学び、ゆくゆくは後継者になっています。店側も、積極的に若者のアイデアを取り入れて、SNSで情報を定期的に発信してもらうなどしています。

観光で水戸を訪れた若者も、オープンキッチンやカウンターの後ろで自分と同世代の人がお店で働くのを見て、このまちで働いてみたいと思うようになり、このまちに集まってきます。オープンキッチンでは店員とお客さんの距離が近いので、店員からお客さんへ水戸の魅力を伝えたりもしています。

このような店舗が集まったマルシェも開かれています。それぞれの店舗のファンが集まって交流することで、新たなファンの獲得にもつながっています。

また、このまちには単に仕事があるだけでなく、安く住める住環境があるので、若者は水戸で暮らし働いています。

## ・まちの魅力について

このまちは、歴史や文化を大切にしながら、柔軟に若者を受け入れているまちです。

水戸は古いものと新しいものが両方あるまちです。伝統ある場所で若者が活躍していることで、古いとは言わせない、新たな文化も柔軟に取り入れるまちになっています。

若者が多く集まる事でまちが活気に溢れ、若者が安定した収入を得られるので経済的にも豊かなまちになっています。また、伝統を守ることによる安心感や伝統が途絶えなくて済む安心感も生まれています。

さらに若者が「安く住み」「活躍できる」ことで、市民と観光客の両方が増えています。

このように、若者が活躍できるまちなので、皆から選ばれています。

このまちを実現するための課題と取組をP63に記載します。

【提言 10】 場所・人・お金が循環する水戸



千波湖畔を気軽に借りられる  
レンタルスペースに

・まちの環境について

水戸市には日本三名園の偕楽園をはじめ千波湖、千波公園があり、これらは偕楽園駅から徒歩で移動可能な距離にあります。

私が理想とする水戸市はこうした環境を活用して「歩いて移動しやすく、自然に人が集まる」イベントを開催しやすいまちです。

千波湖・千波公園は、レンタルスペースのように、申請すれば誰でもその場所を借りることができ、主催者の自由な発想を生かして柔軟に開催できるように、仮設的な設備が設置しやすいようになっています。イベント開催に必要な機材は主催者の持ち込みのほか、貸出しもあります。このようにいろいろな使い方ができるので、クラフト市、こども祭り、公園内でのキャンプ、ヨガ、音楽ライブ、お酒のイベント、高校や大学の文化祭等の様々なイベントの会場になっています。

都内から電車でアクセスできるように偕楽園駅は週末イベントに合わせて臨時で特急が停まる駅として開駅され、駅からは偕楽園や千波湖まで歩きで行ける直結ルートがあります。そのルートには園路や湖畔、広場といった既存空間をつなぐように、偕楽園周辺の豊かな自然や千波湖の白鳥を眺められるスポットなどがあります。

こうしてこの場所には自然と人が集まり、歩き

ながら回遊できる導線が確保されているため、計画的に人の流れを生み出しています。

・市民の活動について

こうした環境を活用して市内では多くのイベントが開催されており、特に千波公園においては、春から秋の週末にクラフト市、こども祭り、公園内でのキャンプ、ヨガ、音楽ライブ、お酒の飲み比べイベント、高校や大学の文化祭等様々なイベントが開催されています。

イベント会場内では様々なイベントブースがあり、お客さんは自分の好きなブースに立ち寄り、スタンプラリーのように会場内を回遊しています。

また、学生はこれらのイベントにボランティアとして携わっています。社会で実際に働いている大人や企業とイベントを通して仕事の手伝いをしたり、話を聞いたりすることで、将来の自分の職業体験につながっています。

高校生や大学生は学校内ではなく千波公園で文化祭を開いています。学校内ではなくいろいろな人が利用する千波公園で行うことで、普段学校に関わりの無い人たちも文化祭を見に来ています。

また、このまちには、都内から電車1本でそこ

に来ることもできるので、車を持たない都内近郊の若者や高齢者が、電車を利用して来訪する姿も見られます。来訪者は駅を降りてからも歩いて楽しめます。

偕楽園駅からイベント会場までは道がつながっているため、人々は偕楽園や千波湖の豊かな自然や白鳥を眺めたりしながら、イベント会場まで迷わず歩いて移動しています。また、電車であるためお酒のイベントなどにも気兼ねなく参加できています。

主催者は千波湖や千波公園でイベントを行っている様子を SNS で発信しています。それにより、新たな主催者がこの場所をイベント会場として利用したいと思うようになり、また人が集まることで循環が生まれています。

#### ・まちの魅力について

こうした活動を展開できる環境があることで、学生や市民が既存の場所や機会を活かしながら、自ら企画し実行する活力が生まれています。

その結果、都内からの来訪者も増え、水戸の魅力は完成されたものとして消費されるのではなく、人々が関わりながら更新し続けていける力へと広がり、水戸を訪れた人々は水戸はいいところだと気に入っています。

学園祭や文化祭も、学校内ではなく市民の憩いの場や観光地でもある千波公園でやることで、学校関係者だけでなく一般市民も来場し、学校の PR や魅力向上にもなっています。

多くの人が偕楽園や千波湖を訪れ、楽しみ、まちが賑わうことで、地域経済の活性化になっています。まちの経済が豊かになることで、このまちの人々は自分のやりたいことに投資できたり、自己実現をすることができています。

既存のもので、場所・人・お金が循環することで豊かなまちになっているので、水戸市は皆から選ばれています。

このまちを実現するための課題と取組を P 65 に記載します。



### ・まちの環境について

このまちは、自然・文化・歴史・商業など様々な魅力を兼ね備えており、居住者も来街者もとりにあえず行ってみたいと思える特徴的なエリアや水戸らしいと思えるものや体験がいくつも存在します。いざまちを歩けば、以下のように水戸市のまちづくりの特徴が感じられ、水戸の魅力として体感できるようになっています。

一つ目の特徴は、豊かな自然です。このまちは千波湖や偕楽園のような大規模な緑だけでなく、中心市街地をはじめとする市街地部も緑豊かで、都市と自然が調和し、互いに魅力を引き立たせています。例えば、緑豊かな街路樹や色とりどりの植物が植えられた中心市街地、駅南に広がる桜川と桜並木や風情の残る下市の備前掘り、まちなかから千波湖まで続く緑地、街路樹や桜並木がまちを彩っています。千波湖を中心に水辺環境もしっかりと保全されており、せせらぎ広場は多くの市民の憩いの場となり、千波公園西の谷や逆川緑地ではホテルが、桜川ではサケの遡上も見られます。

二つ目の特徴は、歴史の深さを感じる景観です。例えば、日本三名園にも数えられる偕楽園、日本遺産になっている弘道館、復元された大手門や隅櫓、歴史的町並みを演出する二の丸

の白壁などがあるほか、江戸時代から変わらない町割りが見られる中心市街地、備前掘りが特徴的な下市、そしてそこでの暮らし・営みなど水戸の歴史の深さを感じられる景観が各所に見られます。これらはただ歴史的な風景的要素としてそこにあるだけでなく、市民の生活の一部に溶け込み、水戸市民の誇りと愛着の源にもなっています。また、過去の歴史に縛られた硬直的なあり方ではなく、資源や思想も含めて時代をけん引する糧として都市のアップデートに果敢に挑む姿がそこにはあります。

三つ目の特徴は、生き生きとした市街地です。特に中心市街地は多くの商業施設・文化施設が集積し、多様な経済・文化活動の場として人々を惹きつけ、曜日を問わず、仕事でも余暇でも様々な目的を持った人々がまちを行き交います。若く活力のある店主が個性的な店舗を経営し、それぞれの店舗とその集積が市内外の人々を楽しませています。道路空間も快適性・潜在性に富んでおり、自動車ではなく「人中心」の空間構成となっています。夏の暑さや冬の寒さともうまく付き合いながらまちなかを楽しめる環境が整っています。沿道店舗は空きが出ればすぐに埋まってしまいうほどで、不動産の流通や再投資も活発に行われています。かつて

のコインパーキングは店舗物件や住商複合ビルに建ち替わって賑わいをもたらし、一部は市民緑地としてまちなかの快適性向上に貢献しています。常に変化し続け、魁のまちとして時代を切り拓いていく姿を体現しています。茨城県では、挑戦するなら水戸の中心市街地で、というイメージが定着しており、挑戦する人だけでなく、応援し、支える人々のネットワークも存在しています。また、中心市街地を基点に公共交通網が整備されており、市内の主要機能や隣接市町村の主要拠点とのアクセス性が確保されているので、市街地間・市町村間の人の往来も盛んになっています。

四つ目の特徴は、これらの特徴的なまちの環境を市民一人ひとりが自覚し、それぞれの価値観の中で楽しみ、豊かな暮らしを実現していることです。「このまちなら、安心して、自分らしく暮らすことが出来る」そんな期待を持てる情報発信も行われています。この環境の中で市民ひとり一人が楽しんでいる姿やそうした暮らしができるという情報発信が行われていること自体も、魅力的なまちの環境の一部となっています。

#### ・市民の活動について

このまちの人々は、日常的に緑に囲まれ、まちなかでも四季を感じながら過ごしています。街路樹があることで日陰もでき、真夏の暑い日でも歩いて移動することができます。また、千波湖やせせらぎ広場、逆川緑地などの水辺にも多くの人々が集まり、豊かな自然環境を日常的に満喫しています。

ゆっくりと穏やかな時間を過ごしたいときには、水戸の歴史を感じられる場所に出かけます。歴史の深みを肌で感じながら、時に先人の教えに学び、時に無心になり、時に自分の考えを整理し、心を整え、新たな活力を生み出します。二の丸の白壁の通りでは、着付け体験や着物での写真撮影イベントに参加したり、お団子や和菓子の食べ歩きをしたり、夜のライトアップを楽しんだりと様々な人がおり、趣味嗜好の

違いはあれど、同じくまちを楽しむ市民の様子もまた明日への活力となっています。時には電車や高速道路、空港、港湾など、比較的容易にアクセスできる豊富な移動手段を活かし、まちの外での体験も満喫します。

余暇の時間は、中心市街地を訪れて散歩したり、個性豊かな店舗や文化的なコンテンツ、そこに訪れる人々との偶発的な出会いを楽しんだり、千波湖のランニングやヨガをしたり、四季の原でピクニックや球技を楽しんだりなど市民一人ひとりが思い思いの楽しみ方を実現しています。また、市内では多くのイベントが開催されています。例えば、千波湖や四季の原では広大な自然を活かした親子で楽しめるイベント、芸術館の芝生広場では手作り雑貨のマルシェ、駅前では市内だけでなく茨城の地場産品が集まったマルシェ、二の丸の白壁通りなど三の丸エリアでは歴史情緒を活かした体験イベント、その他駅前や大型商業施設でのイベントなど、日々様々なイベントが市民と来街者を楽しませています。

こうした活動・イベントの多くは「次世代を担う子たちに水戸での豊かな体験を与えること」や「市民の“やってみよう”を実現する機会をつくること」をコンセプトに開催されているものが多数存在し、こうした取り組みもまちへの愛着を深めるきっかけにもなっています。

そして市民は、このように水戸で暮らす様子や日々感じられる「水戸らしさ」を日ごろからSNSにアップして、豊かな暮らしぶりを共有しており、結果としてSNSを介してより多くの人々に水戸を推し、また推されています。

#### ・まちの魅力について

このまちには偕楽園や千波湖、弘道館、各種の充実した文化施設、個性あふれる店舗等、粒ぞろいの多様な魅力が存在します。しかし、このまちの魅力は単一のものや画一的なものではなく、多様な要素が過不足なく揃っていることで、市民一人ひとりのライフスタイルやライフステージに応じて豊富な選択肢を柔軟に取り得

ることにあります。つまりこのまちでは恵まれた各種の魅力の中で「余白のある日常」を過ごせるのです。この暮らしぶりを水戸らしさとして認識し、日常の余白を市民一人ひとりが自分の色で彩り、日常を豊かに過ごしているため、市民の愛着や誇りも高まっています。

こうした水戸での暮らしや各々の楽しみ方を市民一人ひとりが SNS や日常会話の中で自然と推していることで、それに触れた人々はこのまちの魅力を認識し、日常をより豊かにし、さらに自ら推す側になることでまちの魅力をより明確に自覚していきます。

このように、このまちで暮らす人たちは日々の生活の中で水戸をさらに好きになり、「水戸が好きだから水戸に住む」という感覚が自然なものとなっています。

一方で、市外の人にとっては、水戸で人々がどういう暮らしをしているかが見える状態にあることで、水戸への移住を検討するときの決め手や決断の安心につながっています。このまちには日常的に身近なところに楽しみがあり、そこに住んでいる人が楽しんで暮らしているということが伝わっているので、居住地として水戸を選んで後悔しないと思えて、多くの人に移住したいと思っています。

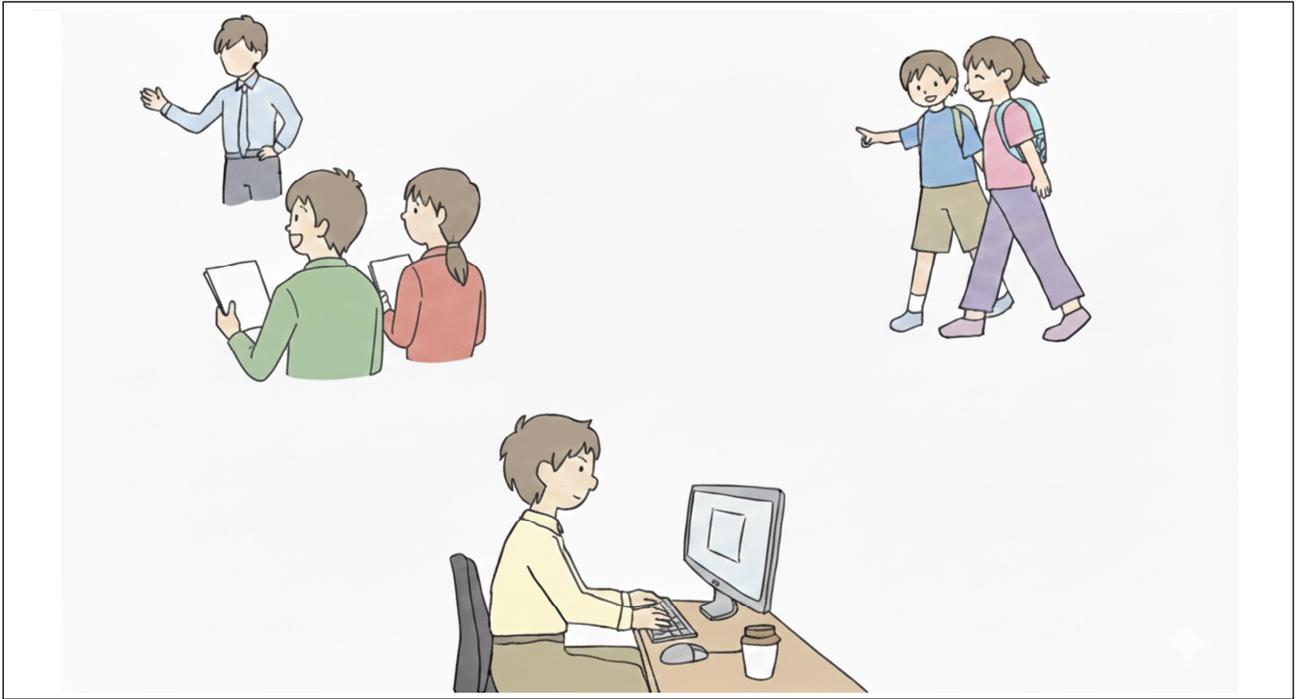
「みんなから選ばれる水戸市」とは、特別な都市になることではなく、水戸市での暮らしが、その人にとってしっくりくる選択肢として存在することです。本提言は、市民一人ひとりが余白のある日常を楽しむことで、シビックプライドを高め、その暮らしぶりそのものが水戸市の魅力となる都市像を目指すものです。

「余白のある日常を、あなた色に。」

その実現こそが、水戸市がこれから選ばれ続けるための確かな基盤になると考えます。

このまちを実現するための課題と取組を P 68 に記載します。

【提言 12】多様な仕事が充実し、達成感をえられるまち



・まちの環境について

このまちは、大学新卒から 20 代前半くらいまでの若者や子育て世帯が自分のライフスタイルに合った仕事や働き方ができるまちである。

このまちには、営業系・事務系・技術系・サービス系などの様々な職種や、農業・製造業・サービス業などの様々な業界の仕事が幅広くあり、働きやすい環境が整備されている。例えば、自宅と職場が通いやすい距離にあったり、スキルアップのための研修、成果に応じた臨時ボーナス、育休、時差出勤、長期間のインターンシップなどの制度がある。また、子育て中の人がかどもを預けて働けるように保育施設が会社に併設されている。

市内には、バスや電車などの、乗り換えしやすく快適な公共インフラの他、水戸市民会館など合同企業説明会を開催しやすい施設も整備されているため、市内に住む人、市外に住む人が働きやすいようになっている。

・市民の活動について

このまちの人々は、自分のライフスタイルに合った仕事を選び、柔軟な働き方をしている。

ここでいう柔軟な働き方とは、働く時間と場所を自由に選べる働き方である。具体的には、フレックスタイム制や時差出勤などの時間に融通が

利く制度が充実しており、若者が個々のライフスタイルやライフステージに合わせて、働く時間や場所を自ら選択できる働き方が該当する。

働き方の具体例としては、若者は、職場でスキルアップの研修を受けて主体的に仕事をし、会社から評価されると臨時ボーナスが出るので積極的に仕事をしている。効率的に仕事に取り組み、残業もなく、休みもとりやすい働き方をしている。

こどもが生まれたときには、こどもが小さいうちは育休を取って育児に専念したり、仕事に復帰したら時差出勤を利用して朝保育園にこどもを預けてから出勤したりしている。

一方で、プライベートの時間では趣味に没頭したり旅行に出かけたりしている。例えば、休日にはしっかり休みを取り家族みんなで千波湖や偕楽園に出かけたり、音楽ライブに出かけたりしている。時差出勤を利用して、午後は早く帰り、日中しか開いていない美術館に行ったり、友達と夜遅くまで遊んだ日は、時差出勤を利用して翌日はゆっくり休んで体調を整えてから仕事に出かけている。

新卒や転職する人は企業の合同説明会に参加し、先輩社員から仕事や働き方の本音について聞いている。企業を実際に見学に訪れたり、一か月

程度の長期のインターンシップに参加して、就職前の想像と就職後の現実とのギャップをなくし、イメージ通りの仕事や能力的に自分に向いている仕事に就いている。

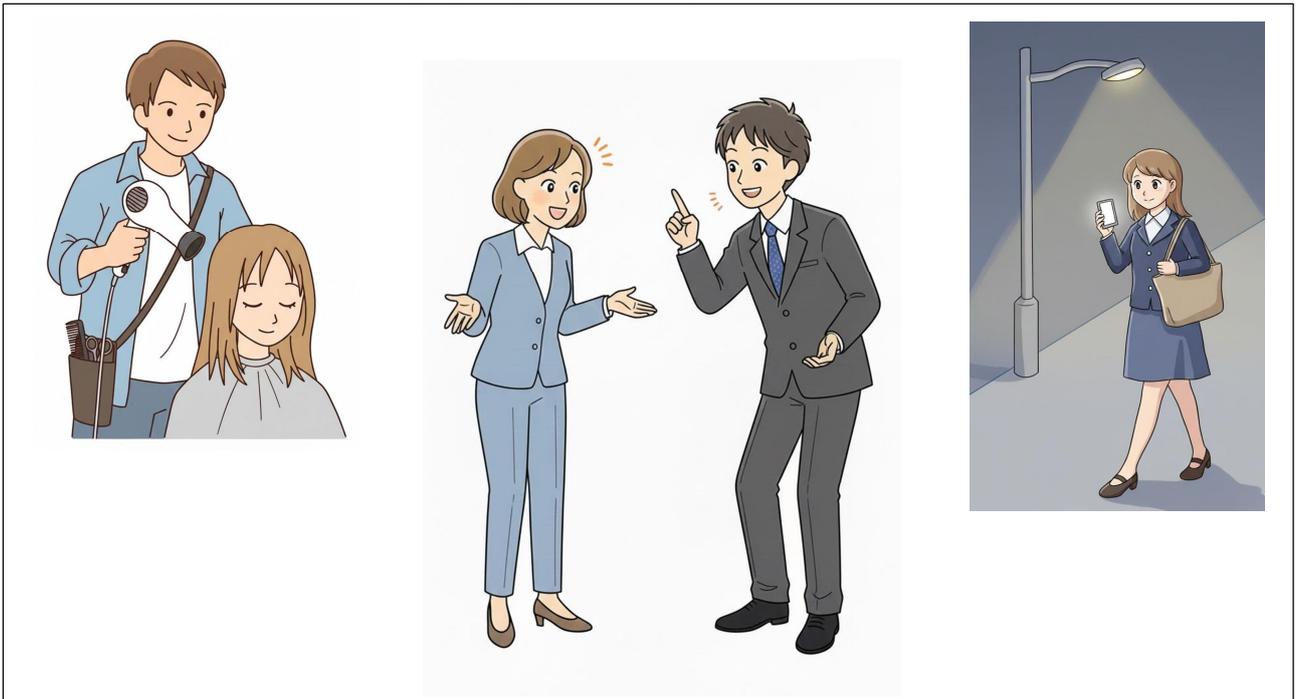
#### ・まちの魅力について

このまちの若者は、仕事もプライベートの時間もバランス良く、豊かに楽しく暮らしている。時差出勤や休暇を取りながら無理なく自分らしく働いている。プライベートの時間では、趣味や旅行などの余暇の時間を楽しんでいる。

就職活動をしている人は、企業説明会やインターンシップに参加することで、想像と現実のギャップを少なくし、自分がやりたい仕事や向いている仕事に就いて生き生きと楽しく働いている。このまちでは、やりたい仕事に就き、達成感ややりがいを得ながら、プライベートも充実して暮らせるので、皆から選ばれている。

このまちを実現するための課題と取組を P 73 に記載します。

【提言 13】若者が住み続けたいと思えるまち



・まちの環境について

このまちは、水戸で大学進学や就職を考えている人が暮らしやすいまちである。

このまちの教育・就業環境としては、県立や私立の高校や大学、大学院、専門学校も数多くあり、進学先が豊富にある。また、美容・服飾・デザインなど、自分のスキルを活かせるクリエイター系の就職先のほか、在宅勤務やフレックス等新しい働き方ができる職場などの選択肢も豊富に存在している。

そして、水戸で進学したり就職したい人のために、進学先情報や就職先情報を一括して見られるポータルサイトがある。このポータルサイトには、市内で働いている社員や市内の学校に通う学生の声、市内で行われる就職に関する講座の情報、奨学金の情報がまとめられており、水戸で進学したい、働きたいと思う人がインターネットからいつでもどこでも情報を得ることができる。

また、就活や働き方についての意見交流や情報共有ができる場として、就活中や同じ分野で働く人など同じ立場の仲間や先輩社会人との交流会、企業見学、インターンシップが多く行われている。

一方、生活する環境としては、市内には街灯や防犯灯が適切に設置され、通学路や通勤路が明るく照らされている。また、自動車や自転車と歩行

者が接触しないように、道路にはスクールゾーンや自転専用レーンが整備されている。また、学校、図書館、市民会館のような公共施設で集中して学ぶことができる環境が整っている。

水戸駅から大工町周辺、ミトリオ・市民会館・芸術館の広場においては、フリーマーケットやキッチンカー、学生の部活や社会人のサークル活動の発表、企業による研究発表などのイベントを開催しやすいように、総合的な運営マニュアルや、共用で使用できる音響設備や大型ビジョンがある。また、運営をスムーズに行うことができるように、対応窓口が分かりやすく示されている。

・市民の活動について

このまちで進学や就職を考えている若者は、学校や就職先の情報をポータルサイトで調べている。また、交流会やインターンシップに参加し、民間企業の働き方、就活の仕方、公務員、大学院の情報など実際の声聞いて情報収集している。就活中や同じ分野で働く人などの同じ立場の仲間や先輩社会人と交流することで、在宅勤務やフレックスなどの新しい働き方や、水戸で働きながらどんなビジョンを持っているか、その仕事地域の中でどんなはたらきをしているかといった

地域での活躍の仕方を学んでいる。それにより、自分の求めている働き方を確立し、自分のやってきたことが生かせる会社や大学で取得した資格を生かせる会社に就職している。

また、歩道は自転車や歩行者が通行しやすいように整備され、夜間は街灯で明るいので、車を持っていない人も自転車や歩きでまちなかを移動している。若者は暗い時間まで学校で学んだり、職場で働くなどやりたいことに打ち込んでいる。遊びに出かけるときも、時間を気にせず出かけている。また、学生に限らず、幅広い年齢層の人が生活を豊かにするための学びに打ち込んでいる。

休みの日には、まちなか（水戸駅から大工町周辺、ミトリオなど）で行われているイベントに参加している。そこでは、自分で開発した食べ物や、ハンドメイド作品をフリーマーケットやキッチンカーで売ったり、企業が研究した成果を発表したり、学生や社会人が部活やサークル活動の発表をしている。ここでは、単に「買い手」として商品やサービスを消費するだけでなく、「売り手（発信者）」として自分のアイデアや商品を提供し、主体的に経済活動をしている。具体的には、商品の背景にある工夫や思いを来場者に説明したり、SNS や名刺交換を通じてつながりを広げるなど、「自分の活動の意味」まで含めて伝える交流が生まれている。こうした活動により、売り手としてその人のやっていることを他者と共有している。

#### ・まちの魅力について

このまちの若者は、地域にいながら多様な進路を描くことができている。

たくさんの進学先、就職先が市内にあることで、幅広い選択肢の中から自分の進みたい道に進むことができている。また、ポータルサイトや交流会、インターンシップで事前に情報を集めることができるので、自分が選択できる中でできるだけ良い選択ができている。そのため、進学すること、働くこと、社会に出て行くことへの不安がなく、将来への希望を持っている。

また、このまちは、大学進学や就職に伴い水戸で新しい生活を始めるときなど、特に単身で暮ら

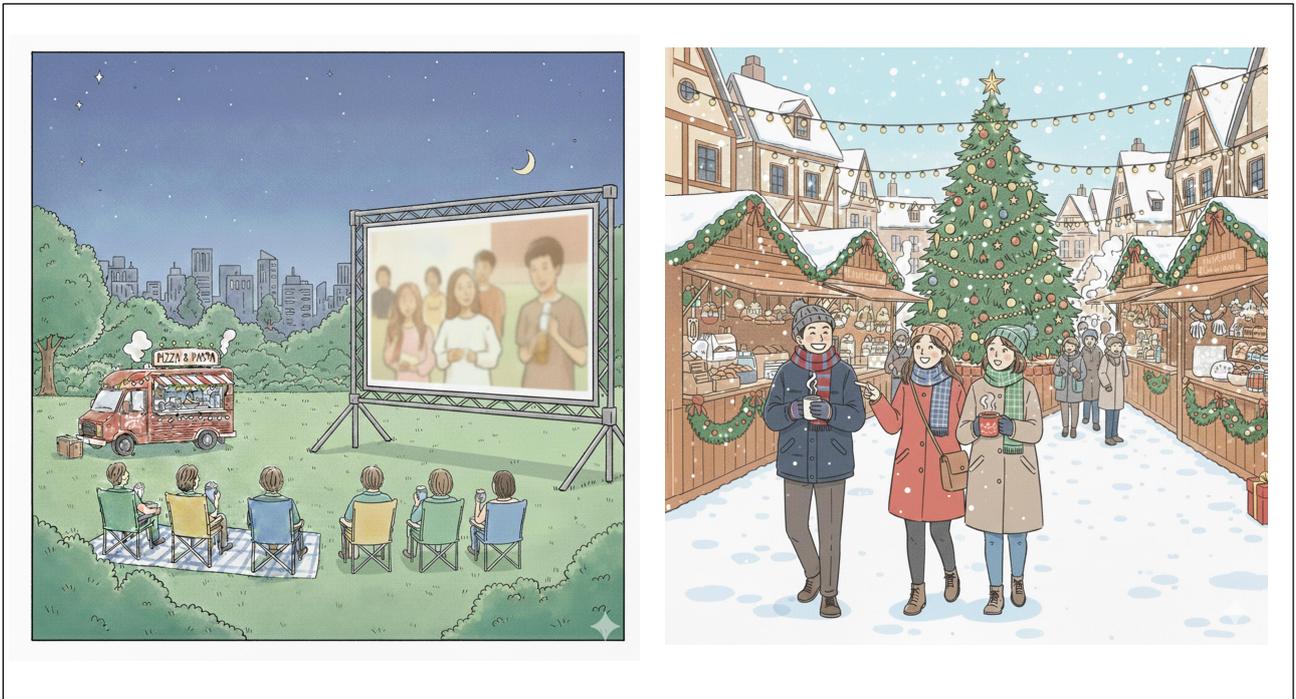
す若者にとって不安を感じることなく生活できるまちである。夜でも暗いところが少なく、歩きや自転車でも安心して移動できるので、学業や仕事に打ち込んだり、時間を気にせず他者と交流したりすることもできる。環境や治安のせいで自分のライフスタイルを害されることがないので、より自由に幸福な人生になる。また、学びを効率的に行う環境が整っていることで、市民の自己実現や生活の向上につながる。

さらに、休日にはイベントが行われているので、まちには活気が溢れている。若者は主体的にイベントに参加しているので、休日は水戸で何をしたらいいかと思うことがない。自らのアイデアや商品を提供し、お客さんに見てもらい（買ってもらう）ことで、自己肯定感が向上し、主体的に生活を送るモチベーションが生まれる。一方で、イベントを見に来たり買いに来たりした人たちは、地元で地域のイベントに楽しく参加している人を見ることで、水戸に良い印象を持ってくれる。

このように、人々は自分らしい生き方ができていることから、水戸は楽しくていいまちだと思っているので、地元に対する愛着が湧いている。水戸で進学、就職し、ひいては、このまま水戸で結婚や子育てをしたいと考える人が増えるので、皆に選ばれている。

このまちを実現するための課題と取組を P 75 に記載します。

【提言 14】誰もが主役になれるまち



・まちの環境について

このまちは、大学生くらいの若者から高齢者までの世代も自分の好きなことを楽しめるまちである。

このまちには市民に親しまれている偕楽園があり、そこでは紅葉や梅のライトアップが行われている。夜でも歩けるように、偕楽園駅から偕楽園までの道のりや園内は街灯が整備されている。

千波湖では、映画の野外上映ができるようにスクリーンがあり、参加者用には貸出しシートが用意されている。ここでは、イベントで様々な人が出店しやすいように、机やテントの貸出しのほか、出店者向けに講演会なども行われている。また、安全に走ることができるよう舗装されたコースがあり、イベントの時以外でもランニングを安全に楽しめるよう、千波湖周辺にも街灯が整備されている。

・市民の活動について

このまちの人々は、千波公園や偕楽園などで行われる様々なイベントに自然と集まり、思い思いの方法で参加している。

例えば偕楽園では、紅葉や梅の季節にライトアップを楽しむことができる。

また、千波公園では、市民が出店（運営）者と

しても参加するイベントとして、映画の野外上映、クリスマスマーケット、マルシェ、高齢者が主催する蚤の市、若者が主催するフリーマーケット、千波湖1周ランニングイベントなどが定期的に開かれている。

千波湖で夜行われている映画の野外上映やクリスマスマーケットには、若者が友達同士や1人でふらっと身軽に立ち寄り、用意されているシートを借りて自由に映画を見たり、おしゃべりしたり食べ歩きしながらゆったりと自分の時間を過ごしている。

若者主催のフリーマーケットでは同年代同士でイベントの楽しさを伝え合ったり、市外から来ている人には水戸のおすすめのお店や場所を紹介したりしている。また、水戸に来たついでに偕楽園などを観光したりしている。

蚤の市では高齢者と若者が商品の話をとおして、趣味や価値観、古物の歴史、時代による生活スタイルの違いなどお互いの知らないことを共有し、世代を越えた交流をしている。

ランニングイベントには多世代の人が参加し、ストレッチをしながら、普段あまり会話をする機会のない世代とおしゃべりをしている。また、高齢者はこのようなイベントに参加することで心身の健康維持にもつながっている。

さらに、市外から移住してきた人もこれらのイベントに参加することで、まちの人たちと交流するきっかけになっている。

これらのイベントは無料で出店や入場ができ、場所も千波湖や偕楽園といった近場で開かれているので、誰でも行きたいときに行くことができる。

#### ・まちの魅力について

このまちは、若者から高齢者までどの世代もイベントに参加するだけでなく、出店・運営する側としても活躍しているまちである。

高齢者は年齢などにとらわれずイベントに参加することで日々の楽しみができ、生き生きと暮らしている。

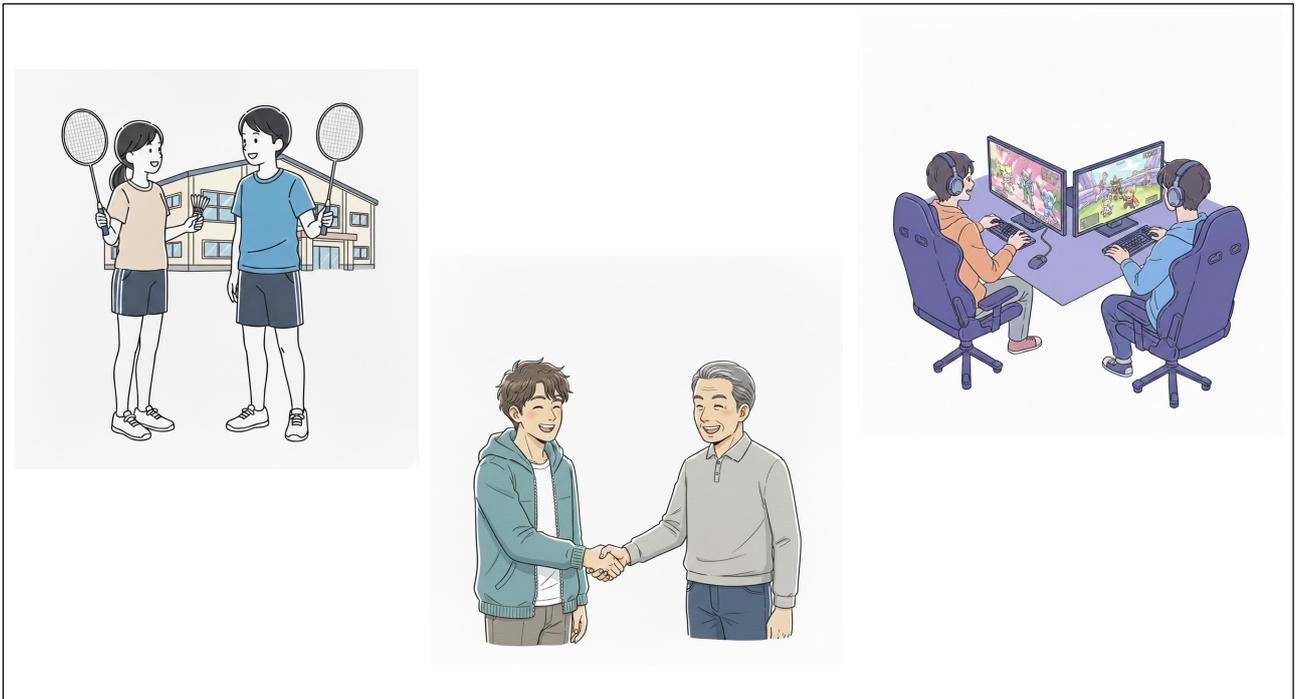
若者はイベントに参加することで、楽しい思い出や人と人とのつながりができ、地域への愛着が生まれている。それによって、また水戸に戻ってこよう、水戸に住み続けたいと思うようになり、水戸で就職し活躍している。

イベントでは市内外の人が交流することにより、住みやすさや人のあたたかさなどの水戸の魅力が市外に住んでいる人にも伝わり、水戸に移住したいと思うきっかけにもなっている。また、移住してきた人もイベントに参加することで地域の人との交流が深まり、このまちに親しみを持つので不安を感じることなく安心して暮らすことができている。

このように、誰もが水戸市に郷土愛を持ち、ここで暮らし活躍したいと思う人が増えているので、このまちは皆に選ばれている。

このまちを実現するための課題と取組を P78 に記載します。
--------------------------------

【提言 15】若者が定着しやすく活気がある街



・まちの環境について

このまちは、人と人の交流が盛んで人とまちがつながっていると感じられるまちである。

水戸は茨城県最大の商業圏であり、昼間の交流人口が多い。このまちには、人々が集まる場所がある。例えば、春は桜、秋は紅葉、冬は梅など四季折々の自然が豊かな偕楽園や千波湖、千波公園、カフェや飲食店などの小売店の店舗が多い大工町や南町を中心にしたエリア、大規模なショッピングセンターやホームセンター、ケーズデンキスタジアム、体育館、市民会館などがある。

体育館には、貸し出し用のバドミントンラケットやシャトル、ネット、ボール、将棋、オセロなどがある。

市民会館には、ゲームイベントにも使えるように大きな会議室や貸し出し用の机やイス、電源、モニター画面、ゲーミング PC やスクリーンがある。

また、このまちには大学生や若者が就職したり起業しやすいように、合同企業説明会を開催できる施設や起業支援の場がある。

・市民の活動について

このまちには、他地域から仕事、通勤、通学、遊びやイベント、買い物でたくさんの人が集まっ

ている。東京を中心とした商業圏からも近く、車で2時間で来られる距離にあるため、多くの人々が集まってくる。

偕楽園や千波公園には、家族連れが訪れ、季節の植物を觀賞しに来たり、ボール遊びをしに来たりしている。千波湖では夜はランナーが走っている。

千波公園で行われるちびっこ広場では、幼稚園生や小学校低学年のこども、親子連れが遊びに来ている。商工会のテントで揚げパンや焼きそばを買ったり、パトカーや消防車の展示を見たり、乗車体験に参加している。

中心市街地で行われるまちなかフェスには、市内外から多くの人が訪れている。裏通りのお店によるキッチンカーやテント販売に立ち寄ったり、高校生の部活による吹奏楽や太鼓の演奏を楽しんだりしている。また、地元のモノづくりの企業が製品をアピールするブースを出店している。車イスに乗る体験を開催していたり、レバー1つで運転できる車イスなどの最先端技術の展示を行っている。

イベントが少なくなる秋や冬にも、日常ではできないようなイベントが開かれている。千波公園では、お酒の立ち飲みイベントが行われ、友人同士や夫婦でお酒を飲み比べたりしながら、会話を

楽しんでいる。

市内の体育館では、バスケットボールやドッジボール、バドミントンなどのスポーツイベント、オセロや将棋などのボードゲームのイベントが開かれている。スポーツイベントにはサークル単位や家族で友人グループで参加したり、あるいは1人で参加する人を集めて連合チームを作ったりして参加し、体を動かしている。また体育館は、個人単位でも借りることができ、学生から大人まで様々な人が小グループでバドミントンなどのスポーツをして汗を流している。ボードゲームのイベントは世代を問わず遊べるので、多世代の人が参加し、異なる世代で交流している。

その他大工町や南町では、友人とランチを食べに来たり、夜は居酒屋で会社員や大学生が飲み会をしている。

ショッピングセンターやホームセンターには、学校や仕事の終わり、休みの日に、本、服、日用品などを買いに来ている。

ケースデンキスタジアムで行われるたこあげイベントには、親子連れが訪れ、たこあげを楽しんでいる。

市民会館で行われるゲームイベントには、ゲームが好きな人が集まって、個人やグループで参加している。ゲームで対戦したり、参加者のプレイをスクリーンで観戦したり、互いの好きなゲームの話をしたりしている。

また、このまちはこうした様々なイベントを支える人達として、イベントで活躍する大学生のボランティアサークルや高校生のサブリーダーズがある。例えば大学生は市内外の介護施設や小学校の運動会のボランティアに行っている。介護施設では、高齢者と一緒にコマ回しや将棋・オセロなど、世代をこえた交流をしている。小学校では、運動会の準備や片付けの手伝い、休み時間に児童とおしゃべりして、今小学校で流行っていることや世代の違いを話したりして交流している。高校生のサブリーダーズは、たこあげイベントで参加者の受付など運営の補助をしている。また、まちなかフェスではヨーヨー釣りや型抜きブースを出店し、遊びに来た家族連れやこどもたちと交

流している。

このまちで働きたいと考えている若者は、大学と地元企業が連携した職業体験に参加したり、合同企業説明会に参加し、地元で就職している。

また、市内の起業家は、これから水戸で起業にチャレンジしようとしている若者を支援している他、経営ノウハウのPRをしたり、まちフェスで事業紹介のブースとして出店する手助けをしている。若者はこうした支援を受けて、水戸で起業している。

#### ・まちの魅力について

このまちでは、コミュニケーションによって、人と人とのつながりが広がっているまちである。

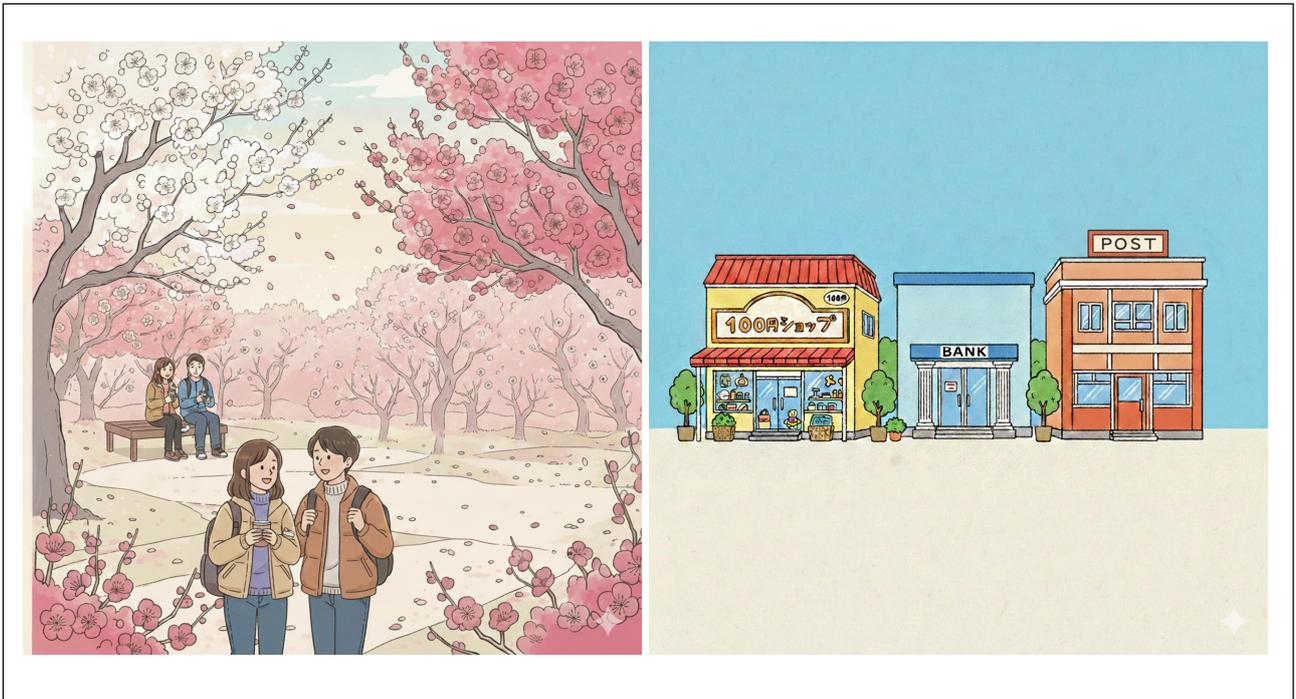
同じ価値観や趣味の人と話すことで、ストレスを発散したり、新たな交流の輪を作ったり、自分の気持ちや感情を表現することができている。さらに異なる世代で交流することで、お互いの価値観や考え方を共有でき、多様性や活気が生まれている。コミュニケーションによって自分の良さを知ったり、人から影響を受けることで、自己成長できている。

若者は様々な活動に参加して活躍しており、地元企業も起業支援や就職支援を通じて、若者が水戸に定着し、地域で力を発揮できるよう後押ししている。

そのため、若者は日々楽しく暮らすことができ、若者を始めとした市民が生き生きとすることから、活気のあるまちとなっている。

このまちを実現するための課題と取組をP79に記載します。

【提言 16】若者が住み続ける、帰ってくる水戸市



・まちの環境について

このまちは、市内に住む大学生も、進学を機に水戸を離れた大学生も、県外から転入してきた大学生も、水戸に住みつづけたくなる、水戸に戻ってきたくなる環境が整ったまちである。

就職面では、市内及び県内には IT 企業や銀行、建築業界、自動車業界、公務員など様々な業界、業種、職種の就職先が多くあり、大学卒業後も水戸で働ける、あるいは水戸で暮らしながら働ける環境がある。また、就活中の大学生を対象に県内企業に絞った合同企業説明会も行われている。

生活面では、食料品を買えるスーパー、フラットファイルや封筒、印鑑、名刺入れなど授業や就活で使うものを買える 100 円均一ショップ、都市銀行や地方銀行の支店、郵便局が自宅や大学から近いところに多くある。

このまちには、偕楽園、護国神社、歴史館、千波湖など、地域に根付いた施設等があり、これらの施設等は市民の余暇でも活用できるようになっている。

・市民の活動について

このまちに住む若者や就職を機に市外から水戸に戻ってくる予定の人たちも、市内や県内で就職できる環境が整っているため、大学卒業後も引

き続き水戸で暮らしている。市内の大学生はもちろん、水戸で就職を考えている県外の大学生も合同企業説明会に参加し、水戸で暮らしながら就職している。大学を卒業後も水戸から出ずに、あるいは水戸に戻ってきて就職することで、地元の友達ともいつでも会えたり、大型連休のようなまとまった休みのときでなくても、家族とたまに会って出かけたり食事をするなどの時間を過ごすことができている。

授業や就活で急にファイルや封筒などを用意する必要に迫られたときには、自宅や大学の近場にあるお店で、大学の授業の講義と講義の間のような隙間時間や夜など自分のタイミングで、すぐに買いに行くことができている。また、都市銀行や地方銀行の支店も市内にたくさんあるので、他県から来た大学生が地元で作った口座をそのまま水戸でも使っている。就活の書類も近場の郵便局からすぐ出すことができている。

余暇の時間には、水戸ならではの様々なイベントや場所に出かけている。

例えば、偕楽園で行われている梅の実販売や梅酒作りのイベント、護国神社の桜のお花見イベント、歴史館の水戸の歴史展や有名キャラクター展など幅広いジャンルの特別展、千波湖周辺のホテルを見られるスポット、市街地中心部で行われる

黄門まつりに出かけている。

イベントには友人と参加したり、1人でふらっと見に行ったり、ゆっくり自分の時間を過ごしている。水戸の良さや歴史を知ったり、どこでもできるわけではない水戸ならではの体験をして、水戸での楽しい思い出を作っている。

#### ・まちの魅力について

このまちの若者にとって、水戸は住みやすく、働く場所があり、地元の友達や家族との時間も過ごせて、安心して暮らせる場所である。

このまちは働ける環境が充実していることに加え、就職先を探しやすいようになっているため、いつかは地元である水戸に戻りたいと考えている人も就職先に困ることがなく、将来への不安が軽減されている。県外から水戸に転入してきた若者もそのまま水戸で暮らしながら働いている。

スーパーや100円均一ショップ、金融機関や郵便局が近場にあるので、わざわざ遠くまで出かけるなくても必要なものを買ったり、お金を引き出したり、郵便を出したりすることができるので、快適に過ごしている。

余暇の時間は、水戸ならではのイベントに参加して、楽しい思い出ができることで、まちへの愛着が湧いている。

地元の友人や家族とも距離的に近いところでつながれていることで、安心感も生まれている。

これらのことから、このまちに住みつづけたい、このまちに戻ってきたいと思う人が増えるので、皆から選ばれている。

このまちを実現するための課題と取組をP81に記載します。

## 【第2部】

# 理想のまちを実現するための課題と取組

### 第2部の見方

第2部は、第1部で描いた理想のまちの姿を実現するための働きかけを、以下のようなロジックに基づき記載しています。

①：第1部で描いた、私が理想とする水戸市の姿の要旨を記載しています



②：①の中から実現したい魅力を選び、目標と定めています



③：②の目標を実現するに当たっての課題を記載しています



④：③の課題を解決するための行政の取組を記載しています

## 【提言1】「活気ある教育を選択できるまち」

### 【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・このまちは、市内だけでなく市外からも子どもが通いに来る、市を代表する小中学校があります。生態系の研究に打ち込めるよう機材や図書が揃った私立の学校、教科別担当制が導入されている国立の学校、ICTや英語などに力を入れている公立の小規模特認校があり、子どもたちは、自分が望む学校を選び、学習に取り組んでいます。また、これらの学校へ進学を希望している家庭のために、入学前説明会も行われています。
- ・市内の学校に通う子どもたちは、市の学校給食共同調理場から配送される給食を食べ、課外授業で育てた野菜を収穫したり給食の食材として使われることで、みんなであたたかな給食を食べる楽しさや、生産者への感謝の気持ちなどを学んでいます。
- ・このまちなら、子どもたちが活気ある教育と豊かな自然の中で好奇心や探究心を育み、多才な才能を開花させながら成長していけるので、子どもの教育に関心が高い家庭の移住も促進されるので、皆から選ばれています。



このまちの魅力の一つは「市内の小・中学生が活気ある食育を受け、食への関心を持てるまち」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

### 【課題】

学校給食共同調理場からの給食を受け取れるように、私立小・中学校へ提供する。

### 【課題解決への取組】

市内にある私立小・中学校と協議をし、希望する学校に対しては以下の条件により学校給食共同調理場から給食を提供する。

#### 【提供の条件】

- ・市立の小・中学生と同額の給食費を納めてもらうこと
- ・単に給食を提供するだけでなく、食育を促すため年に1回程度学校給食共同調理場を見学し、職員からの説明を受けることを教育プログラムに組み込むこと。

## 【提言2】「負担のない出産・子育てができるまち」

### 【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・このまちは、移住してきた子育て世帯を含め、産後期から乳幼児の期間を安心して暮らせるまちです。産後期から乳幼児の期間の支援を一体化した拠点施設や、ファミリーサポートセンター、子育て世帯の親たちが情報収集したり交流できるアプリがあります。安心してこどもと出かけられるように、公園の設備も整備されています。
- ・育児や家事の支援の有無に関わらずどんな環境の家庭であっても、産後から拠点施設を利用して支援を受けることで、負担を解消したり安心して育児をすることができています。
- ・育児に負担を感じることがなく、移住してきた子育て世帯も地域とつながれて心細くなることもないので、このまちなら産後も無理をしないで育児ができ、水戸で子育てして良かったと思えるので、皆から選ばれています。



このまちの魅力の一つは「誰もが安心して子育てできて、希望した人が皆支援を受けられるまち」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

### 【課題】

産後から乳幼児期までの多面的な問題に対応できる環境を作るため、総合的な子育て支援拠点施設を作る。

### 【課題解決への取組】

以下のような機能を備えた総合的な子育て支援拠点施設をつくる。

・産後ケアエリアは、ヨガやストレッチができる運動スペース・食事スペース・宿泊スペース・託児スペースを設ける。

助産師・調理師・栄養管理士が常駐する。

このエリアは希望すれば誰でも利用でき、パパも利用可能とする。産後から生後12か月まで無料（もしくは低額）とする。

・一時保育、病児保育エリアは、こどもが走り回れるくらいの広い部屋にし、床にはマットを敷く。子どもが遊ぶおもちゃやお昼寝用布団を配置する。

保育士や看護師が常駐する。

病児保育エリアへは専用の入り口と通路を作り、産後ケアエリア一時保育エリアをは別ルートで入れるようにする。

・育児相談エリアは、助産師が常駐し、相談者のプライバシーを守れるように個室に分ける。悩み事を聞いたり、支援の案内をする。

(他市の参考事例)

・こどもふっかパーク (深谷市こども館) (深谷市ホームページより引用)



階	室名	機能
1階	わんぱくアリーナ (体育室)	こどもが自由に遊ぶことができるスペースです。バスケットボールやバドミントン、卓球、ボルダリングなど、様々なスポーツを未就学児から高校生までが楽しむことができます。
	相談室	利用者が育児やこどもの成長全般についての相談をしたり、こどもが悩み事などを相談したりできるスペースです。
	一時預かり室	保護者が一時的に家庭での保育が困難な時などに、こどもを安心して預けることができるスペースです。
	事務室	職員が施設管理や事業運営などの事務を行うスペースです。
	エントランスホール・その他	来館者の待ち合わせができる場、子育て支援情報等を発信できる場です。
2階	アソビバ (プレイホール)	7つのエリアに分かれた遊び場です。それぞれのエリアでは、大型ネット遊具やデジタル遊具を設置するほか、トランプや将棋、ボードゲームなどで遊べるエリアがあります。その他にも、クッション性のある床で0歳から2歳までのこどもが遊べるエリアや、3歳以上のこどもがごっこ遊びのできるエリアがあり、年齢に応じた遊具や玩具で、親子一緒に触れ合いながら楽しめます。
	タベルバ (休憩エリア)	自動販売機を設置し、こどもや保護者が飲食することのできるスペースです。持ち込みの飲食も可能です。
	ヨメルバ (図書室)	こどもが自由に絵本や児童書、漫画など様々な本を読むためのスペースです。親子で読み聞かせをすることもできます。
	マナビバ (自習室)	こどもが静かな空間で自主学習をするためのスペースです。
	ケイコバ (多目的スタジオ)	防音の部屋でこどもが歌を歌ったり、楽器を演奏するなど音楽を楽しむことのできるスペースです。また、壁面に鏡を設置してあり、ダンスの練習や体操をすることもできます。
	アピルバ (スプラッシュテラス)	こどもが噴水等で水遊びを楽しめるスペースです。保護者は日陰でベンチに座って見守ることができ、着替え用の部屋もあります。
	ツディバ (集会室)	プロジェクターやスクリーン、音響設備を設け、保護者向けの講座やこどものためのビデオ上映や会議などに利用できるスペースです。
	ツクルバ (工作・調理室)	工作、ぬり絵などをこども同士、親子で楽しむことのできるスペースです。また、調理台を設け、親子料理教室や食育事業などを行う予定です。
	授乳室・おむつ交換室	授乳やおむつ交換などをするスペースです。
その他	トイレ・多目的トイレ	利用者、職員が使用できるトイレや、乳幼児をはじめこどもが使いやすい機能を備えたトイレを設置します。また、男女ともベビーキープを設置するほか、全ての利用者にとって使いやすいバリアフリー、オストメイトに配慮したトイレを設置します。
	その他	受付スペース、更衣室、ベビーカー置き場等

・つくばみらい市の産後ケア事業（市 HP より抜粋）

**【利用対象者】**

下記の項目がすべて当てはまる、お母さんとお子さん

- ・1歳のお誕生日前日までのお子さんがいる方
- ・利用日当日につくばみらい市に住民登録がある方
- ・お子さん・お母さんともに医療行為の必要のない方，感染症の疑いがない方

**【利用回数】**

- ・訪問型 5回まで（多胎の場合，あわせて10回まで）
- ・通所型・宿泊型 あわせて5回まで（多胎の場合，あわせて10回まで）

**【自己負担額】**

	自己負担額※
訪問型	無料
通所型	1,000円
宿泊型	2,500円 (1泊2日)

パパのための産後ケアもある。



※水戸市の産後ケア事業（市 HP より抜粋）

## 対象者

水戸市に住民票があり、かつ下記に当てはまる産後1年未満のお母さんとお子さん

- 1 ご家族などから家事や育児の支援が受けられない方
- 2 産後の体調不良や育児に不安を感じている方

※母子ともに医療行為が必要な方は対象外となります

※赤ちゃんだけのお預かりはできません

## ケア内容

お母さんの心配事やお子さんの体調に合わせて、

- ・お母さんの健康状態の確認や乳房ケア、休息
  - ・お子さんの健康状態や体重、栄養などの確認
  - ・授乳や沐浴などの育児に関する相談、指導
- などを受けることができます

## 実施機関

施設名称	所在地	利用可能月齢		
		宿泊	通所	訪問
青木医院	水戸市木町3-4-7	3か月未満		×
★石渡産婦人科病院	水戸市上水戸1-4-21	1か月未満		×
岩崎病院	水戸市笠原町1664-2	×	4か月 未満	×
★植野産婦人科医院	水戸市五軒町2-3-7	4か月未満		×
★江幡産婦人科病院	水戸市備前町4-11	1歳未満		×
水戸赤十字病院	水戸市三の丸3-12-48	4か月未満		×
山縣産婦人科	水戸市千波町371-4	4か月未満		×
茨城県助産師会	水戸市千波町2475 栗原ビルA号室	×	×	1歳 未満
水戸メンタルクリニック	水戸市梅香1-2-50	×	×	1歳 未満
★加瀬病院	ひたちなか市市毛835	4か月未満		×
ひたちなか母と子の病院	ひたちなか市青葉町19-7	3か月未満		×
根本産婦人科医院	笠間市八雲1-4-2	×	1歳 未満	×
産前産後ケア施設 アテール	牛久市ひたち野西3-31-11 Axis Hitachino 003	1歳未満		

★印・・・こちらの医療機関で出産された方が対象

※施設により、自己負担金が異なります。

※施設により、利用条件があります。

### 【提言3】「もう一人産めるまち」

#### 【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・このまちは、出産時の不安が少なく、複数の支援の手を借りながら無理なく安心して子育てできるまちです。高齢出産や無痛分娩に対応できる産婦人科や、さまざまな教育方針の保育園や幼稚園、子どもと遊べる公共施設、スクールガード、日中勤務が中心の職場、赤ちゃん用品などを買えるお店やスーパーが充実しています。
- ・このまちの人々は、自分がどの病院でどのような出産をしたいか、子どもを預けるときには教育方針や子どもの性格に合っているかどうかなど、住んでいる環境で選ぶのではなく自分の基準で選んでいます。産後働くときも、このまちには日中勤務や短時間勤務、休みをとりやすい職場があるので、自分のライフスタイルに合わせて働いています。休息の時間や家事の時間を確保したいときには、ファミリーサポートや託児サービスを利用する一方で、休みの日には子どもと一緒に出かけしています。
- ・出産も子育ても仕事も自分にあった選択をすることができ、安心して暮らせるまちです。それにより気持ちに余裕が生まれもう一人産みたいという希望を持てるので、皆から選ばれています。



このまちの魅力の一つは「子育てと家庭、仕事を無理なく回せて、「もう一人産みたい」という希望を持てるまち」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。



#### 【課題】

自分に合った産院，保育園，幼稚園を選べるようにするため，市内の施設を維持する。

親の休息時間を確保するため，保育園を利用しやすくする。

子育てとのバランスを取りながら働くために，短時間・少ない日数で働ける職場が少ない状況を解消する。

#### 【課題解決への取組】

私は現在の産院，保育園，幼稚園の設置状況には満足しているが，少子化や物価高騰等の影響を考えると，今後は施設数が減少していくことが見込まれる。

そのため，産院，保育園，幼稚園に少子化や物価高騰等の影響に応じた公費を投じ，統廃合を防ぐ。

※参考資料「産科診療所の経営状況と今後の事業継続の見込み」に関する調査結果

保育園利用申込みの条件から就労時間（64時間/月以上）の制限をなくす。

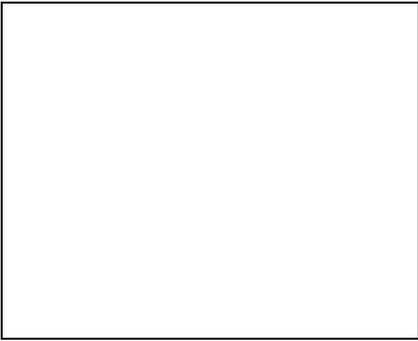
これにより，親は子どもを保育園に預けつつ扶養内で収まるように短時間労働をすることができる。

なお，利用申込時に64時間未満を証明する書類を提出不要にするなど，手続きも簡素化する。

子育てしながら働く女性の一般的なキャリアの流れを，  
①就職⇒②産休・育休⇒③時短勤務⇒④通常復帰  
と考える。

この場合，会社の人員が少なくなるのは②と③であり，もし③が通常の半分の勤務時間だった場合，単純計算では②の倍の人数を雇えばいいことになる。

そこで，②の穴埋めをするように0-3歳児を育てる親を③として一時的に雇用（※）する企業に対し，優遇制度を設



ける。

優遇制度としては、市がそうした企業を認証し、企業ガイドブックなどで周知を図る。なお、経済持続性があり、他社のモデルケースとなるような企業には報奨金を与える。

※比較的簡単かつ時間に融通の利く、短時間でできる内職やデータ入力業務を想定する。

資料1 「産科診療所の経営状況と今後の事業継続の見込み」に関する調査結果より抜粋

## 2. 産科診療所の特別調査 一経営状況(医療法人)

### 収益の減少と費用の増加で損益分岐点比率も悪化

- 2023年度の医業収益は前年度の4.28億円から4.25億円に減少、物価高騰等の影響を受けて医業費用は4.15億円から4.17億円に増加した。結果、医業利益は1277万円から2023年度は866万円となり32.2%減少、経常利益は1506万円から1306万円となり13.3%減少した。
- この結果、2023年度の損益分岐点比率は97.5%となっており、赤字経営となる100%超の水準に達している。

	収益と費用 (n=191)		
	2022年度	2023年度	対前年度比
医業収益	42,793	42,548	-0.6%
うち入院収益	23,435	23,388	-0.2%
うち外来収益	14,245	14,282	0.3%
医業費用	41,516	41,682	0.4%
うち医薬品費	2,901	3,021	4.1%
うち給与費	22,386	22,465	0.4%
うち委託費	2,939	3,016	2.6%
医業利益	1,277	866	-32.2%
経常利益	1,506	1,306	-13.3%

損益分岐点比率は実際の売上高(収益)に対して損益分岐点売上高がどの程度の割合になっているかを示す指標。  
 損益分岐点比率=損益分岐点売上高÷医業収益、損益分岐点売上高=固定費÷(1-変動費率) ことでの固定費は給与費、減価償却費、その他医業費用。変動費は医薬品費、材料費、委託費。

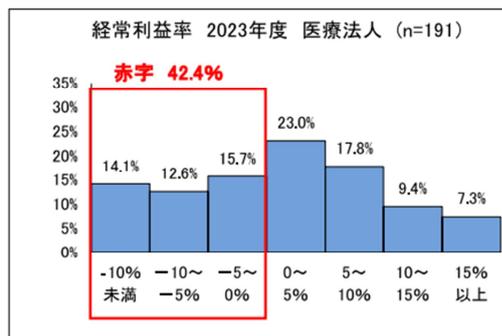
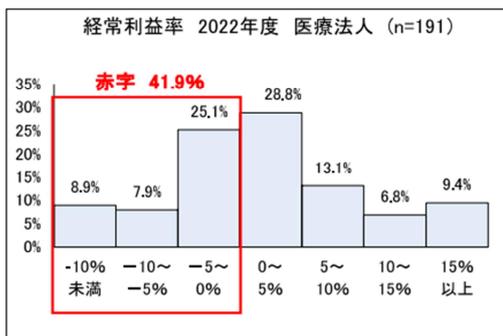
「産科診療所の特別調査」日医総研WP487

12

資料2 「産科診療所の経営状況と今後の事業継続の見込み」に関する調査結果より抜粋

## 2. 産科診療所の特別調査 一経営状況(医療法人)

- 2022年度の経常利益赤字施設は全体の41.9%、2023年度は42.4%を占め、赤字施設の割合が増加している。



【参考】有床診療所全体の赤字施設割合に関する既存調査は以下がある。

- 「医療経済実態調査」: 一般診療所(医療法人)入院診療収益あり(n=115)  
 損益率0%未満の割合 25.3%(2021年度)→32.2%(2022年度)  
 (「第24回医療経済実態調査報告-令和5年実施-」中央社会保険医療協議会 2023年11月「損益率等の分布」より損益率階級を集計)
- 「有床診療所の現状調査」: 医療法人(n=222)  
 経常利益率赤字割合 20.3%(2021年度)→23.4%(2022年度)  
 (「令和5年 有床診療所の現状調査」日本医師会総合政策研究機構 2023年11月)

「産科診療所の特別調査」日医総研WP487

13

## 【提言4】「すべての子育て世帯が過ごしやすい居場所があるまち」

### 【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・私が理想とするまちは、障害や難病の有無に関わらず、未就学児や小学生の子どもやその養育者が安心して過ごせるような居場所がたくさんあるまちです。
- ・土日祝日や夏休みなどの長期休暇のときには、子育て支援センターや体育館に出かけて子どもを遊ばせたり、周囲の目を気にせず語りたいときには、市民センターの個室を利用して過ごしています。共通の子育ての話をしたときには子育て世帯が集まるイベントに参加したり、養育者が病院に行きたいときは託児ボランティアに頼んだりしています。
- ・このまちは、子育てによる閉塞感や孤独感を感じるものがなく、安心して過ごすことができるので、皆から選ばれています。



このまちの魅力の一つは「子育て世帯が安心して過ごせるまち」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

### 【課題】

天候に左右されずにいつでも子どもが遊べるようにするため、祝日も公共施設を開放する

子育て世帯の身近に居場所があるようにするため、市民センターの利用条件を緩和する。

### 【課題解決への取組】

子育て支援センター「はみんぐぱーく・みと」「わんぱーく・みと」を祝日も他の日と同様に8時30分～17時まで開館し、祝日に職員を配置するための予算をつける。

併せて、施設内のホール等を使って室内で体を動かせることを乳児だけでなく園児や小学生にも広く知らせる。

（他市の参考事例）

・ひたちなか市の子育て支援センター「ふぁみりこ」や筑西市の子育て支援センター「ちっくんひろば」は土日祝日も開館している。

小中学校やリリーアリーナMITOなどの体育館について、子育て世帯を対象に以下の内容で開放する日を祝日を中心に作る。

- ・利用は無料とする
- ・子ども同士の衝突をさけるために監視員をつける
- ・暑さ対策も兼ね、夏季の開放日を多くする
- ・個人（一世帯）でも利用できるようにする
- ・年齢に応じて開放日を変える

市民センターの利用手続きについて、以下の条件を満たす場合には、団体としての登録がなくても利用できるようにする。

- ・18歳までの子どもとその保護者が利用すること
- ・保護者が明確であり、連絡を取れること

併せて、滑り台やジャングルジムなどの室内遊具を配置する。

各市民センターでも子どもを預けられるように、受け入れ体制を構築する。

各市民センターで一時預かりができるように、託児用の部屋を設ける。また、希望する地域住民に対して最新の情報を交えた子育てに関する研修を実施し、研修を受けた託児ボランティア（有償）を養成することで安心して預かることができるようにする。

- ・各託児室で預かる子供の数は1～2名/時
- ・託児ボランティアは各市民センターに2～3名/日
- ・託児室は児童1人あたり1.98㎡を超える広さを確保し、安全に配慮した最低限の設備と玩具を用意する
- ・一時預かりの予約はLINEを使って30分単位で可能なため、急用の時もすぐに依頼ができる。

### 【提言5】「まちごと家族のまち～頼れる人がそばにいる子育て～」

#### 【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・このまちには、困ったときに気軽に頼れる「子育て・地域つなぎコンシェルジュ」がいます。そのため、転入者など地域コミュニティとの関係が薄い子育て世帯や、近くに親族がいない人でも安心して暮らすことができます。
- ・市民はオンラインや対面でコンシェルジュに相談でき、またコンシェルジュからのお節介な関わりを通じて、適切な支援やサービスにつながることができます。若い世代も結婚・出産前からコンシェルジュと顔なじみになることで、ライフステージが変わっても安心して頼ることができます。
- ・このまちには「相談すれば大丈夫」と思える人がいます。また、お節介を受けた人が次は誰かの力になりたいと思うことで、助け合いの気持ちが循環しています。こうした安心感と信頼関係が、まち全体を家族のような関係にし、水戸市が皆から選ばれる理由となっています。



このまちの魅力の一つは「顔の見えるつながりがあり、子育て世帯が孤立せず安心して暮らせるまち」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

#### 【課題】

（コンシェルジュ側）

コンシェルジュが支援を求める子育て世帯に声かけできるようにするため、コンシェルジュ制度を整備する。

（子育て世帯側）

子育て世帯が困ったときに相談できるようにするため、分かりやすい相談体制を構築する。

#### 【課題解決への取組】

コンシェルジュ制度の制度設計を行う。研修やガイドラインを設けることで、声かけや情報の取扱いに対する不安を軽減する。

図書館や子育て施設にコンシェルジュを常駐させ、以下のように周知する。

- ・施設入口の目立つ場所に専用 POP を設置。
- ・カウンターに名札＋「相談できます」を表示。
- ・市公式 LINE で週 1 回の告知をする。
- ・市の子育てページに専用ページを設置。
- ・プレママ教室で直接紹介タイムを設ける。
- ・母子手帳交付時に案内チラシを同封する。

コンシェルジュは、図書館や子育て施設にきた市民へ「困りごとはありませんか？」と軽く声かける。声かけ時には「相談だけでも大丈夫ですよ」と添え、心理的ハードルを下げる。必要に応じて席まで移動して話を聞いたり、子ど

<p>(共通)</p> <p>助けたい人と助けてほしい人が出会い、継続した関係を築けるように、早い段階からコンシェルジュと顔見知りになる機会をつくる。</p>

<p>もをあやしながら相談に乗る。場合によっては「よければ一緒に窓口まで行きましょう」と同行支援も行う。</p> <p>市の LINE にコンシェルジュの公式アカウントを作り、LINE から相談日時の予約や空き状況を確認できるようにする。当日は相談者に専用 URL が届き、オンラインで相談ができる。</p> <p>(参考事例) 日程調整ツール Jicoo (ジクー)</p> <p><a href="https://www.jicoo.com/">https://www.jicoo.com/</a></p> <p>コンシェルジュは相談内容に合った制度や支援に関する情報を地域拠点施設の職員と共有し、情報の掲示を促す。</p>
<p>ブレママ教室や赤ちゃんとのふれあい体験で、コンシェルジュの直接紹介タイムを作る。</p> <p>若いうちからコンシェルジュと知り合いになっておくことで、いざというとき頼りやすい。</p>

## 【提言6】「生涯活躍し続けられるまち」

### 【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・私の理想のまちは、子育てがひと段落した世代や仕事をリタイヤした世代でも夢を実現することができるように、専門的な機材や設備を備えた誰でも使える便利な施設があります。また、小学生の緊急下校先施設もあり、こどもの下校時に親がどうしても間に合わないときにこどもが待てる場所になっています。
- ・このまちの人々は、自分の夢を実現するために興味・関心のあることに挑戦し、それによってほかの誰でもない「自分という個人」を表現しています。それによって社会とのつながりを強く感じることができています。
- ・結婚や出産、子育て、年齢等に関係なく、生涯生き生きと活躍することができるまちなので、皆から選ばれています。



このまちの魅力の一つは「誰でも生き生きと活躍できるまち」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

### 【課題】

自分の夢を実現できるようにするため、誰でも使える大きな多目的ホールを作る。

### 【課題解決への取組】

現在使われていない空き家や倉庫、テナントの入っていない店舗等を市が買い上げリノベーションし、次のような施設を作る。

- ・調理器具の揃った家庭科室のような部屋。
- ・防音設備や音響設備を備えたフローリングの床と鏡張りの壁の多目的ホール。
- ・小学生の緊急下校先エリア。（普段はただのんびりしたりカフェなどお店が開かれる際はテーブルイスなどを設置してイートインスペースになる。）

なお、買い上げやリノベーションにかかる費用はクラウドファンディングを利用して資金を集める。

（施設のイメージ参考事例）

調理室のイメージ

写真

（著作権の関係により省略）

調理室のイメージ（としま産業振興プラザ）

としま産業振興プラザ URL: <https://www.toshima-plaza.jp/facilities/cookinglab.html> より引用

## 多目的ホールのイメージ

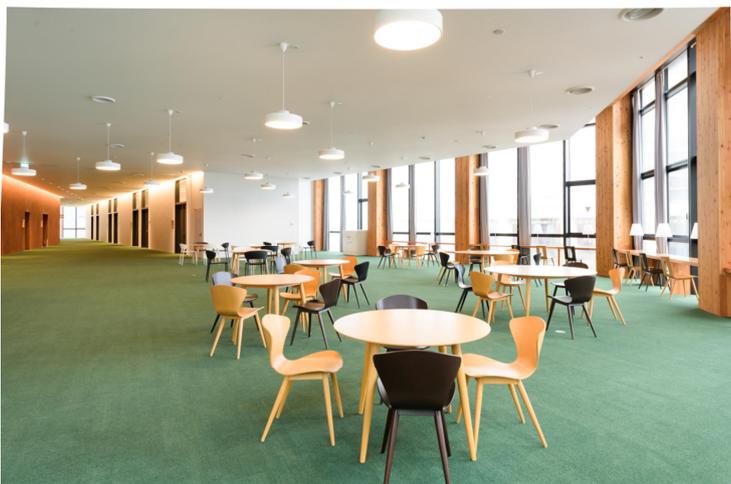
写真  
(著作権の関係により省略)

多目的ホールのイメージ (ダンススタジオ：ミュージック昭和)

[ダンススタジオ：ミュージック昭和 | 山形の音楽専門店・ミュージック昭和]

<https://www.musicshowa.co.jp/session/dance> より引用

## 小学生の緊急下校先エリアのイメージ



水戸市民会館 HP より引用

【提言7】「地域コミュニティが相互作用しあうコンパクトな範囲でも暮らしやすい水戸」

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・私が理想とするまちは、それぞれの地域コミュニティが活性化し、他の地域コミュニティとも相互影響し合いながらコンパクトな範囲でも生活ができるまちです。市民センターを核として、住人やコミュニティがつながっています。町内会がない地域コミュニティに住む人や移住者でも、地域の情報を得ることや地域の活動に参加することができるなどして、地域とつながることができています。また市民センターは、市民がやってみたいことにチャレンジできる場にもなっています。
- ・このまちは、同じ地域に住む人々と助け支え合いながら、コンパクトな範囲でも楽しみながら暮らすことができ、やりたいことにも挑戦できるまちなので皆から選ばれています。



このまちの魅力の一つは「移住者がコンパクトな範囲で住みやすく馴染みやすいまちと感じられる水戸」であり、ここではこれを一つの目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

【課題】

移住者が暮らしに役立つ情報を得られるようにするため、市民センターにアナウンスコーナーを作る

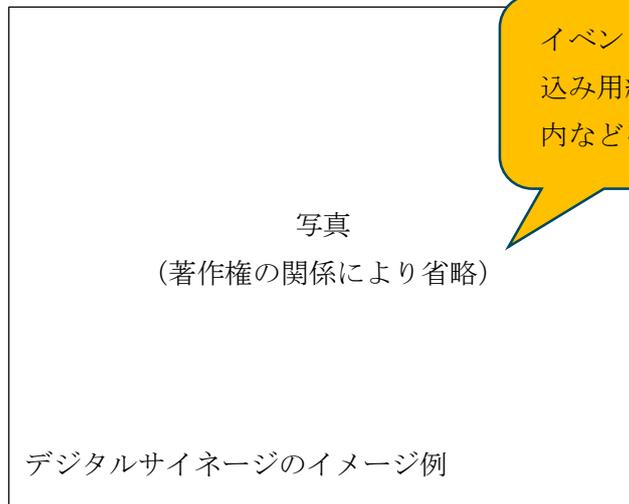
【課題解決への取組】

各市民センターにアナウンスコーナーを設け、そこに1台ずつデジタルサイネージを設置する。

デジタルサイネージには、移住者が必要とする地域の行事や「移住者向け交流イベント」などの移住者向け情報を表示する。

これにより、市民センターのスペースを有効活用できるとともに、リアルタイムの情報を周知することができる。

下図)デジタルサイネージのイメージ



画像の出典元 URL

[https://documents.signage.ricoh/casestudy/RDS\\_Casestudy.pdf](https://documents.signage.ricoh/casestudy/RDS_Casestudy.pdf)

このまちの魅力の一つは「若者がコンパクトな範囲で楽しいまちと感じられる水戸」であり、ここではこれを二つ目の目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

#### 【課題】

身近なところに学生の居場所をつくるため、市民センターに飲食可能な学習スペース・フリースペースを確保する

#### 【課題解決への取組】

各市民センターに学習や雑談などに活用できるテーブルと椅子があるフリースペースを導入する。

テーブルと椅子がセットになったものをいくつか設置し、学習だったり飲食するスペースとして活用しやすいようなフリースペースを作る。フリーWi-Fiも設置し、PCやタブレットを活用する人にも使いやすくするなどして学習環境が整うよう整備する。また、一角に図書や雑誌などのコーナーを置くことで、気軽に立ち寄って活用できる仕組みも取り入れる。



神戸市新長田合同庁舎 1 階のフリースペース活用事例

<https://kodomotto-kobe.jp/article/explain/0028.html>

このまちの魅力の一つは「高齢者がコンパクトな範囲で住みやすく暮らしやすいまちと感じられる水戸」であり、ここではこれを三つ目の目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

### 【課題】

いつまでもまちなかを回遊できるようにするため、交通網を整備する。

### 【課題解決への取組】

以下の図のように、街中を周遊するバスと路面電車を整備する(周遊バスの表示に関してはまちなかの一部に限定して表示しているが、水戸市内各エリアでこのような規模感の周遊バスがあるイメージ)。

これにより、高齢者の引きこもりや社会的孤立に伴う衰弱防止も図る。



参考地図)

<https://mitokoumon.com/pamphlet/>

写真

(著作権の関係により省略)

路面電車のイメージ例

写真

(著作権の関係により省略)

市内循環バスのイメージ例

左)宇都宮の次世代型路面電車 (L R T)

<https://u-movenext.net/about/>

右)山形県鶴岡市市内循環バス

[https://www.shonaikotsu.jp/local\\_bus/tsuruoka\\_shinaijunkan.html](https://www.shonaikotsu.jp/local_bus/tsuruoka_shinaijunkan.html)

このまちの魅力の一つは「子育て世帯がコンパクトな範囲で住みやすく暮らしやすいまちと感じられる水戸」であり、ここではこれを四つ目の目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

#### 【課題】

身近なところに親子連れの居場所をつくるため、市民センターの居心地を良くする。

#### 【課題解決への取組】

各市民センターに気軽に子どもが遊べる遊具スペースを作る。

市民センターの部屋の一角を未就学児の子どもが暑さや寒さを気にせず遊べるスペースとして開放する。予約ではなく、近隣の市民センターをその地域に住んでるエリアの人が使えるようにするなどし混雑を緩和させたりなどの工夫をする。子どもが多い地域などでは、遊具スペースを広めにとったり、部屋数を増やすなど地域に住んでいる住人の属性に合わせて調整する。

写真

(著作権の関係により省略)

市民センターの活用イメージ例

上)佐賀県伊万里市の市民センター活用事例

<https://mainichi.jp/articles/20220809/ddl/k41/040/386000c>

**【提言8】「どんな人でも動物や植物を身近に感じられる環境、動物も人間も過ごしやすい街「アニマルタウン」」**

**【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】**

- ・このまちでは、日常的に動植物を見たり触れ合ったりできるように、屋内型ふれあいパークやドッグラン、動物病院などの環境が充実しています。さらに、動物病院と犬猫の保護活動をしている団体が連携しています。
- ・このまちの人々は、動物に直接触れたりすることで、不安やストレスを減らし、気持ちをリフレッシュしています。一方で、捨て犬や捨て猫を見つけたときには見て見ぬふりすることなく保護して動物病院に連れて行きます。
- ・このまちには、生き物への愛着だけでなく動物愛護の気持ちもあふれています。人間と動植物が共存しやすいことが魅力となっているので、皆から選ばれています。



このまちの魅力の一つは「市民が動植物を通してリフレッシュできる街」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

**【課題】**

動物ふれあいパークを作るため、市民の機運を高める。

**【課題解決への取組】**

動物の人気を高めるイベントを開催する。イベント内容は以下のとおり。

内容：

動物を遠くから見るだけでなく、非日常的な体験(普段は動物園の飼育員しかできないお世話体験や、鷹を腕に乗せたり、蛇を首に巻いたりするなど、動物との距離を近く感じることに出来る体験)ができるもの。

なお、体験中の様子は写真で撮られており、それを購入することができる。

主催：

水戸市

場所：

水戸京成百貨店、イオンモール水戸内原のような民間商業施設の一部区画

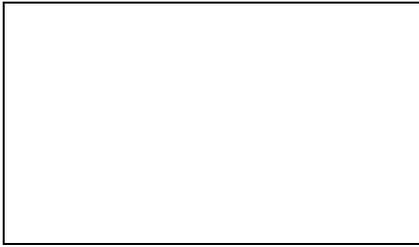
開催時期：

学生の長期休暇（夏休み、冬休み）などと被る時期をメインに、その他は場合によって開催。（集客が見込まれる連休など。）

課題解決との関係：

非日常的体験が思い出として昇華された際に、強く印象に残る。そして、動物と触れ合うことが楽しい思い出として記憶されると、市民がまた行きたいなとなり、期間限定から定期開催から常設にすることができる。

このように、まず動物の魅力などを伝え、動物とふれあうことでリフレッシュが叶うということを認識してもら



い、ゆくゆくは動物ふれあいパークの意義を確立し、開設に持っていく。

(参考事例) 令和7年8月に水戸京成百貨店で行われた「夏休み動物王国 in 京成百貨店」



イベントの参考例 (夏休み動物王国 in 京成百貨店)

展示動物の一例



展示動物の参考例 (夏休み動物王国 in 京成百貨店)

## 【提言9】「若者からの魅力度 NO1 のまち」

### 【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・このまちは、歴史や文化などの古いものも大切にしつつ、若者が収入を得ながら住むことができるように、経済・住宅環境が整っているまちです。
- ・このまちには、偕楽園や好文亭、駅北の商店街の町並みなど歴史や文化を感じられる場所がありつつも、昔ながらのお店は若者が好むような現代的なおしゃれさも持ち合わせています。このようなまちに若者は興味を持ち、ここで働きながら生活しています。
- ・若者が多く集まり、まちで活躍していることで、まち全体に活気が溢れています。このまちに人々は魅力を感じるので、皆から選ばれています。



このまちの魅力の一つは「若者が心も経済的にも豊かに暮らせるまち」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

### 【課題】

若者が働きたいと思える職場を増やすために、企業の福利厚生や研修制度を充実させる。

### 【課題解決への取組】

以下の条件を満たす企業を「若者応援事業者認証制度」として認証し、市内企業の福利厚生・研修制度の充実を図る。

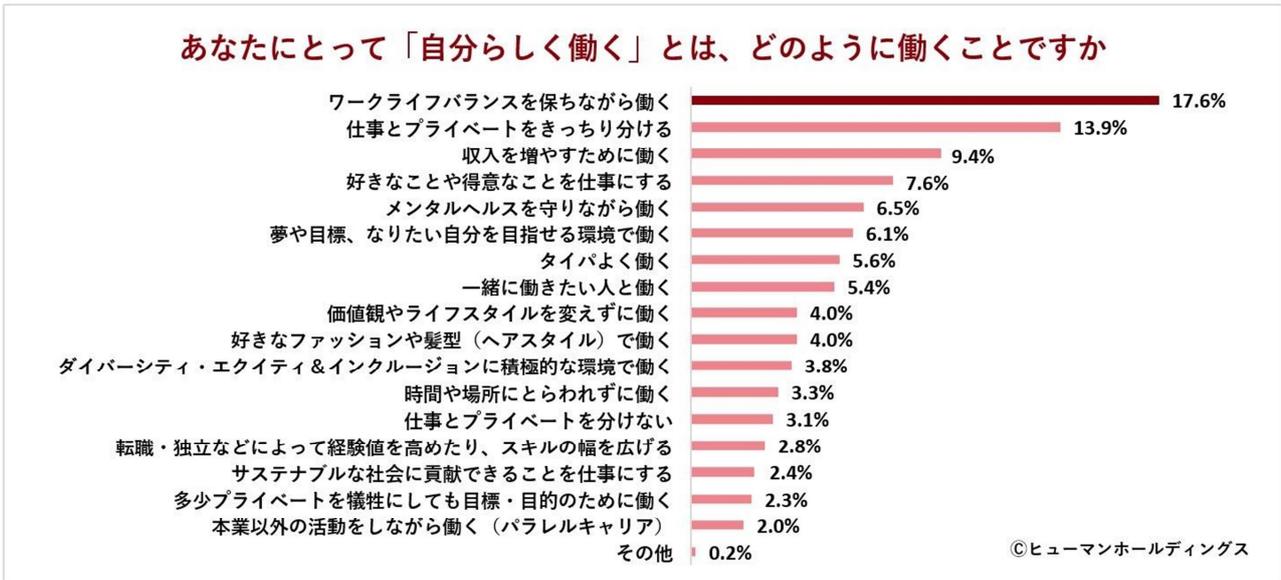
認証する企業の基準

- ・長時間労働がないこと
- ・若者向けビジネス基礎研修を行っていること
- ・オンライン SNS 運用学習支援を行っていること
- ・ウェルビーイング制度があること
- ・結婚お祝いサポート制度があること
- ・住宅サポート制度があること

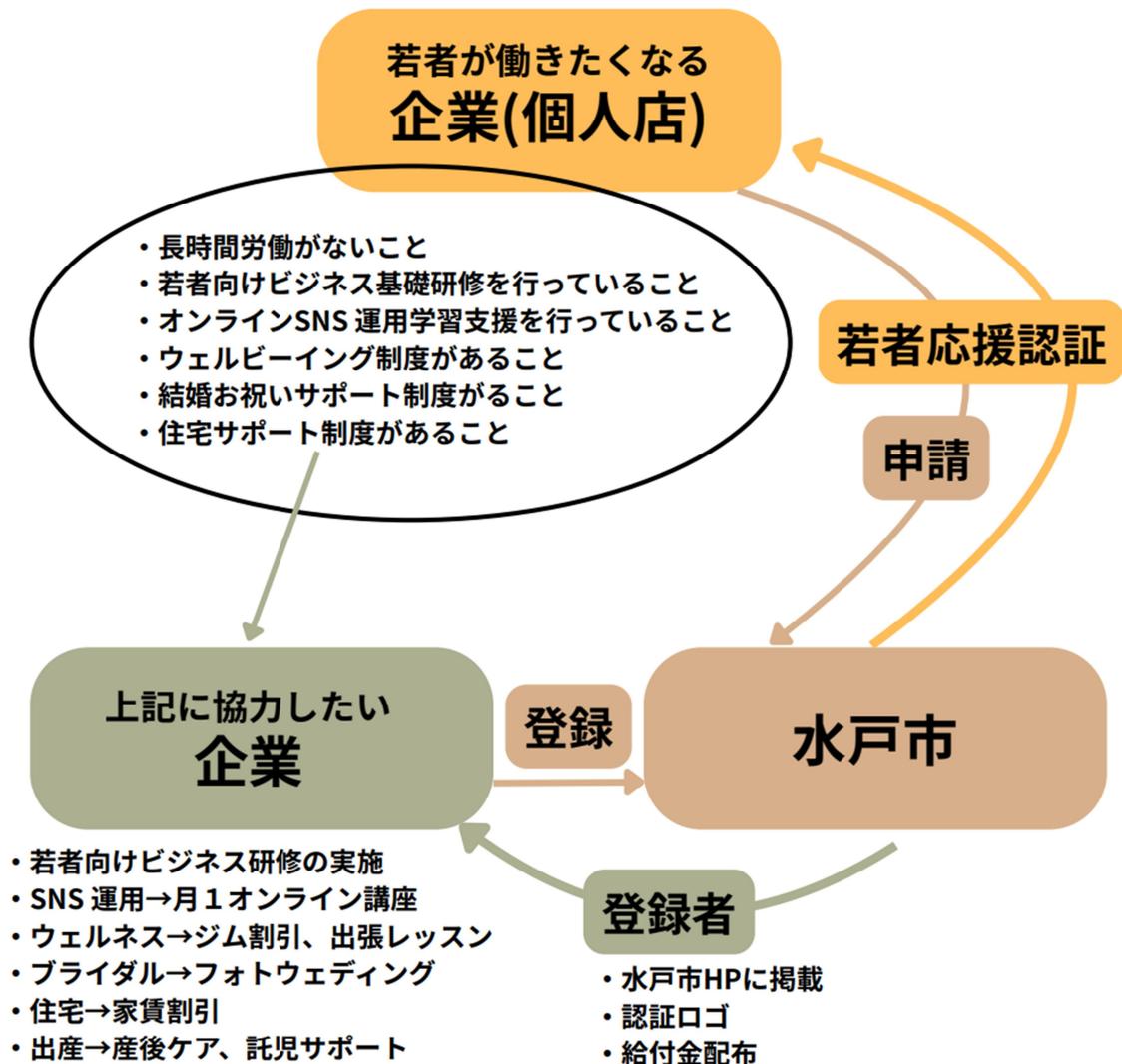
上記の基準を満たす企業は「若者応援事業者認証制度登録者」として市 HP に掲載する。認証ロゴを使用できる。併せて、市から補助金を交付する。

また、若者が働く企業や個人店にとっては、費用と時間を負担する事なく若者の雇用を増やせる可能性が高まる一方、若者にとっては、「若者応援事業者認証制度」として見える化されるため、企業と若者の望ましい雇用を促進する効果も期待できる。

ヒューマンホールディングスが2024年全国の働く20～28歳を対象に実施した「仕事観と自分らしさに関する調査」(回答数1000名)より抜粋



取組のイメージ



## 【提言 10】「場所・人・お金が循環する水戸」

### 【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・私が理想とする水戸市は、「歩いて移動しやすく、自然に人が集まる」イベントを開催しやすいまちです。このまちには偕楽園駅から歩いて移動できる距離に千波湖や千波公園、偕楽園といった、人々が集まりやすい場所があることで、人々は自由な発想でさまざまなイベントを開催しています。また、都内から電車1本で来ることのできるのも、車を持たない都内近郊の若者や高齢者も、電車を利用して来訪しています。
- ・多くの人々が偕楽園や千波湖を訪れ、楽しみ、まちが賑わうことで、地域経済の活性化にもなっています。また、まちの経済が豊かになることで、人々は自分のやりたいことに投資できたり、自己実現をすることができているまちであるので、皆から選ばれています。



このまちの魅力の一つは「市民がやりたいことに挑戦してわくわくできるまち」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

### 【課題】

手間なくすぐにイベントを開催できるようにするため、千波公園の利用手続きを簡素化する

### 【課題解決への取組】

イベントで千波公園を利用したいときに、ネットから1回で申請ができるようにフォーマットを作る。

ワンストップ申込のイメージ

- ・公園の利用空き状況をネットから確認できる。
- ・イベント開催にあたり主な申請先として、  
千波公園の占用許可→公園緑地課  
食品販売や調理の許可→保健所  
花火や火気の使用許可→火災予防課  
屋外広告物の設置許可→都市計画課  
が挙げられるが、専用フォーマットへ必要事項を入力すると各種申請書に項目が転記され、担当課へ一括送信される。これにより書類記載の手間や時間を省く。
- ・添付書類もアップロードで添付できるようにする。
- ・各種書類の様式や問い合わせ先もまとめて掲載し、申込者が一目でわかるようにする。

(参考事例)

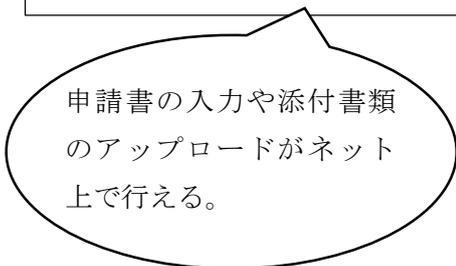
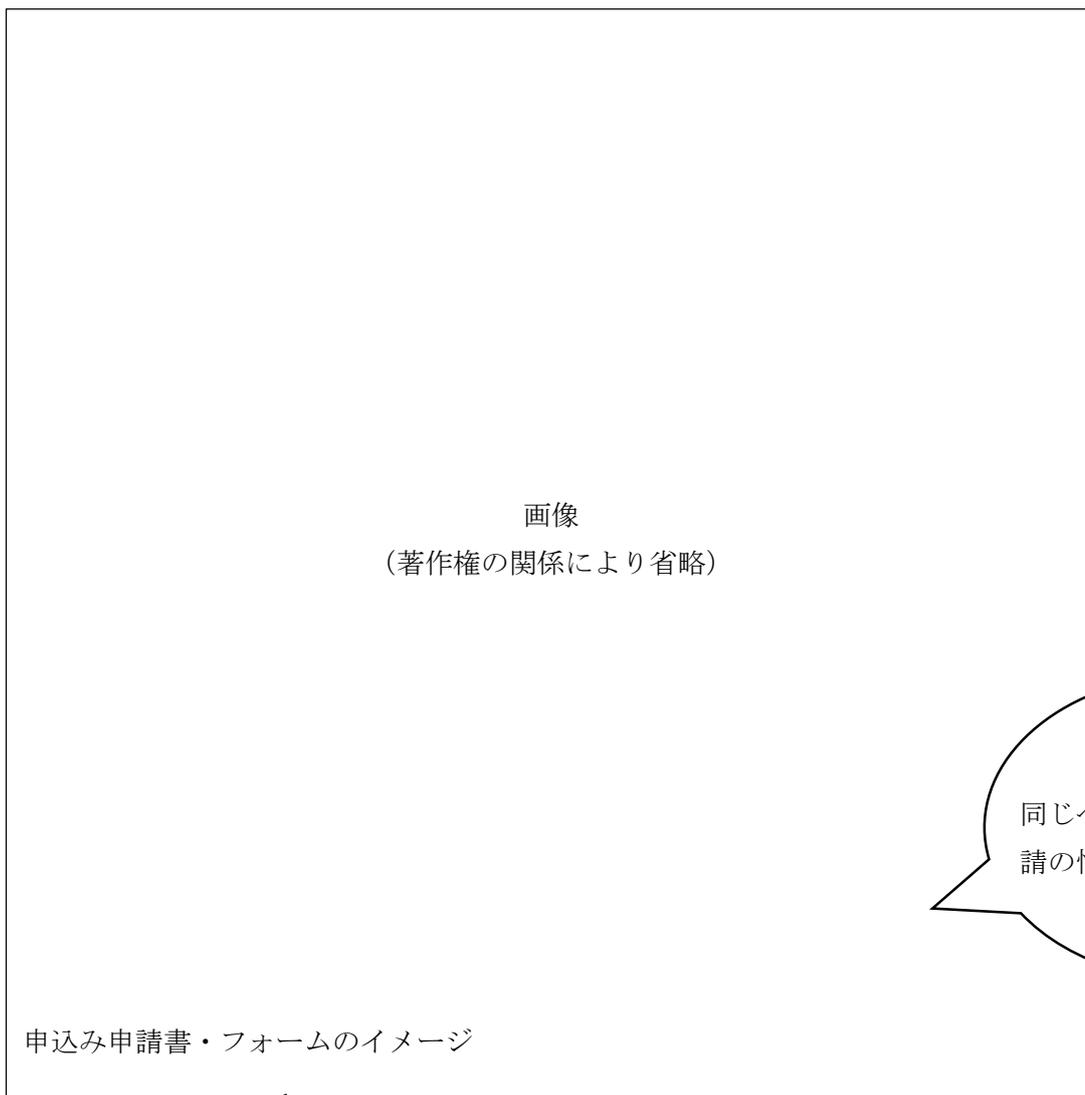
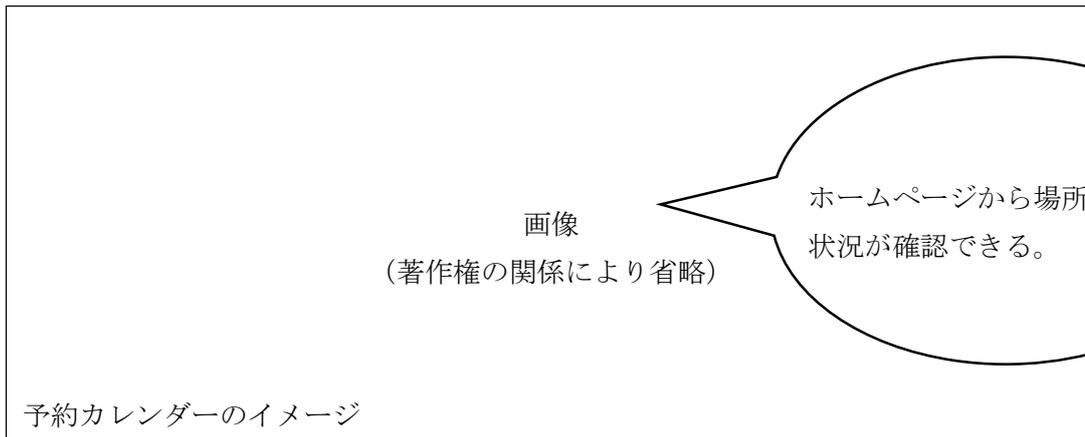
あそべるとよたプロジェクト

<https://asoberutoyota.com/>

【花時計公園で集客イベントを開催する皆様へ】公園利用申請をワンストップ化します

<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/75/174410.html>

あそべるとよたプロジェクトのホームページより抜粋



## 【花時計公園で集客イベントを開催する皆様へ】公園利用申請をワンストップ化します

更新日：2025年6月23日更新

### 花時計公園でのイベント開催を後押し！

花時計公園を会場にするイベントは、商工課で名義後援申請及び、公園利用申請に係る書類をワンストップで受け付けます。

#### 申請方法

1 予約状況確認 … 公園緑地課(Tel：0263-34-3254)に事前に空き状況を確認

2 ワンストップ申請 … [Logoフォームからご申請ください<外部リンク>](#)

※ 紙書類の場合は以下の書類を一括で商工課へご提出ください。

#### ■ 名義後援許可申請

- 松本市名義後援申請書
- 事業内容のわかる資料（趣意書、パンフレット原稿等、イベント時の緊急連絡先を必ず記載）
- 経費の算出資料（入場料・参加料・出展料等を徴収する場合は、提出が必要です。事業が「営利を目的としないもの」であることを確認します。）

#### ■ 行為・占用許可申請

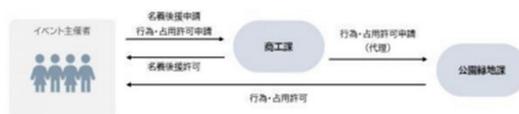
- 行為許可申請書（都市公園内において次に掲げる行為をしようとする場合に提出して下さい。）
  1. 行商、券金その他これらに類する行為をすること。
  2. 業として写真又は映画を撮影すること。
  3. 興行を行なうこと。
  4. 集会、競技会、展示会等を催すこと。
  5. その他、団体で利用する場合。
- 占用許可申請書（都市公園内に工作物又は施設を設けて都市公園を占用する場合に提出して下さい。）
- 事業の内容が分かる書類（趣意書、パンフレット原稿等、イベント時の緊急連絡先を必ず記載）
- 平面図（占用面積を確認するため）
- 車両ナンバーの記載の一覧表（公園内に車両の乗り入れがある場合） ※キッチンカーを含む

（○は様式書類、●は添付書類）

3 許可 … 各担当課から許可決定通知書が発行されます。

※後援許可：商工課 行為・占用許可：公園緑地課

#### フロー図



#### ◆ 様式ダウンロード

- [松本市名義後援許可申請書 \[PDFファイル/148KB\]](#) / [松本市名義後援許可申請書 \[Wordファイル/41KB\]](#)
- [行為許可申請書 \[PDFファイル/98KB\]](#) / [行為許可申請書 \[Wordファイル/51KB\]](#)
- [占用許可申請書 \[PDFファイル/109KB\]](#) / [占用許可申請書 \[Wordファイル/59KB\]](#)

#### ◆ イベント告知もサポートいたします

ワンストップ受付をご利用いただいたイベントにつきまして、松本市公式観光サイト「新まつもと物語」イベント情報の掲載をご案内しています。

詳しくはお問い合わせください。

#### ◆ 関連ページ

【提言 11】「市民一人ひとりが推せるまちづくり～余白のある日常を、あなた色に～」

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・このまちは、まちなかでも緑が豊かで暮らしやすいこと、大手門や二の丸の白壁などの歴史の深さを感じる景観やイベントがあること、自然・歴史・商業・文化・居住など様々な要素が絡み合いながらも快適に利用できる生き生きとした市街地があることなど、さまざまな資源が過不足なく存在しています。
- ・このまちの人々は、このような水戸の良さや水戸らしさを自覚しながら楽しんで暮らしています。そして、水戸の魅力をそれぞれが日常の中で体感しているため、水戸の推しとして明確に相手に伝えることができるので、市外の人にも水戸での暮らしの良さが伝わり、水戸への移住を検討するときの安心につながっています。
- ・このまちの魅力は画一的なものではなく、多様な要素が過不足なく揃っており、一人ひとりのライフスタイル等に応じて豊富な選択肢を柔軟にとり得る「余白のある日常」を過ごせることにあります。この暮らしぶりが「水戸らしさ」であり、水戸の魅力です。



このまちの魅力の一つは「水戸らしさ」を満喫している市民の日常」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

※この目標の達成を測る指標を「シビックプライドを自覚している人の割合」及び「市公式 Instagram のフォロワー数」、「#みとさんぽ」の投稿件数とする。

【課題】

中心市街地が緑化されているようにするため、以下の対策を行う

- ・国道沿いの植栽を行う
- ・市民緑地の認定や空き地の利活用を促進する

白壁通りに体験コンテンツが有るようにするため、イベントでの活用を促す

【課題解決への取組】

国道 50 号沿いの植樹帯に高木を植えるよう道路管理者と調整する。

なお、樹木の空洞化やムクドリ等の鳥害が想定されるため、まずは調査事業を立ち上げ、国道 50 号バイパスや県庁周辺の樹木、鳥害の状況を把握した上で適切な対策を取る。

国道 50 号沿いの再開発等土地利用の更新に際して、一定割合の緑化を義務付け、それに対して容積率の緩和や固定資産税の軽減措置を取る。

また、緑の基本計画で定める通り、市民緑地認定制度の周知と活用を推進するとともに、コモンズ協定（立地誘導促進施設協定）を活用し、空き地の暫定的にでも緑化や滞在空間化するインセンティブを与える。

景観に調和した茶屋や団子屋、軽飲食、着物レンタルなど、文化施設の来訪と組み合わせる滞在型サービスをコンセプトとするイベントを実施する場合、補助金を交付する。

また、規制により実施できない企画がある場合には、市との適切な打ち合わせを行うことを条件として、その規制の緩和を行う。（水戸市景観条例、水戸市屋外広告物条例など）

<p>#みとさんぽにて様々な日常の様子がアップされているようにするため、認知度を向上させる</p>	<p>水戸市主催のイベントにおいて公式 Instagram 及び#みとさんぽの存在を周知するとともに、長期休暇や連休、帰省のタイミングに合わせて情報発信を強化することで、新規投稿の増加を狙う。</p> <p>また、転入届提出の際など市民窓口で案内することで認知向上を図る。</p> <p>既にある#みとさんぽの中から特に反響が大きいものを選出し、市職員がそれらを追体験する様子を公開しさらなる拡散を図る。</p>
<p>市職員が自信を持って水戸を推しているようにするため、生活者目線で主観的な推しを表現する機会を設ける</p>	<p>市職員一人ひとりが個人として水戸市のどこに魅力を感じているのか、日常業務の中で自然に語れるようになる仕掛けを導入する。</p> <p>具体的には、市職員の名刺やプロフィールに「私の推しポイント」を記載する。</p> <p>これは観光的な説明ではなく、職員自身の生活に根ざした一文とすることで、水戸市の魅力を「画一的な回答」ではなく「私の暮らしの一部」として伝える。</p> <p>なお、記入は義務ではなく任意とし、書いても良いというくらいの余白を残す。</p> <p>これにより市職員自身の意識をまちに向け、その過程でシビックプライドを高め、内部から都市イメージを育てることで、水戸らしい行政を展開できるようにする。</p> <p>併せて、市民との会話や接点の中で、水戸市の魅力が生活者の視点で共有される状況も生み出すことを狙う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【記入例】</p> <p>「朝、千波湖を歩く時間が好きです」</p> <p>「子どもと市民会館に行くのが日常です」</p> <p>「弘道館の静かな空気が落ち着きます」 など</p> </div>

【目標に関する補足説明】

現状について、水戸市が実施した「—あなたと描く水戸の未来—市民1万人アンケート」では、シビックプライドに相当であろう質問「あなたは、水戸市をどのように感じていますか」に対する選択肢「水戸市に愛着や誇りを感じる」の回答割合で「そう思う」が 18.0%、「まあそう思う」が 39.9%となっています。

読売広告社都市生活研究所の調査による「シビックプライドランキング 2025」(<https://civic-pride.com/research-report-list/13600/>)では全国 10 万人以上の 278 自治体を対象に住民が「愛着」や「誇り」を感じるまちをランキングしていますが、水戸市は 177 位と下位に位置します。同研究所によれば総合 1 位の中央区では「歩きたくなる個性豊かなまちの魅力」と「公共施設や公園に対する評

価の高さ」があり、日常に寄り添った生活者目線のまちづくりが、結果として住環境やワークライフバランスに対する満足度の高さ、居住継続以降の高さに繋がり、シビックプライドの向上に貢献していると分析しています。

水戸市公式 Instagram のフォロワー数は 2026 年 2 月 8 日現在で 8,536 人となっており、これは市民（令和 6 年時点：266,965 人）のうち約 3.2%、生産年齢人口（令和 6 年時点：156,088 人）のうち約 5.5%に相当します。Instagram ユーザー数は市民に限らないほか、法人や団体アカウントも存在するため一概に割合で評価はできませんが、ひたちなか市の公式 Instagram が 2.9 万のフォロワーがいることと比べるとかなり少ない状況です。#みとさんぽについては 5,000 件以上の投稿があり、アカウントの認知に課題はあるものの、投稿の蓄積は進みつつあります。

# 1 住みごころ

## 1-1 水戸市の印象

約7割が「住みやすいと感じる」

問1 あなたは、水戸市をどのように感じていますか。項目ごとに、番号に○をつけてください。

(○はそれぞれ1つ)

	(n=4,978)					無回答
	(単位:%)					
	1 そう思う	2 まあ そう思う	3 どちらとも いえない	4 あまりそう 思わない	5 そう 思わない	
(1) 住むところと自然が調和している	22.7	49.5	17.1	7.1	1.9	1.8
(2) 水が豊富できれいである	19.2	40.5	24.6	11.3	3.0	1.5
(3) 公園が多く利用しやすい	15.5	31.8	27.2	17.8	6.1	1.6
(4) 遊ぶところが多く生活を楽しめる	5.1	19.0	33.3	30.0	11.1	1.5
(5) 百貨店や大型店が多く楽しい買い物ができる	6.9	21.6	25.4	29.1	16.0	1.0
(6) 都会的な雰囲気がある	2.1	8.3	24.4	38.4	25.7	1.1
(7) 交通機関が発達している	4.7	19.3	26.1	29.5	19.3	1.1
(8) 道路が整備されている	6.7	34.1	28.1	20.6	9.5	0.9
(9) 災害などが少なく安全である	16.5	41.9	24.5	10.9	5.2	0.9
(10) 清潔で衛生的である	9.4	45.0	33.3	8.1	2.8	1.3
(11) 福祉(高齢福祉や障害福祉など)が充実している	5.2	26.8	48.0	14.0	4.8	1.1
(12) 病院などの医療機関が整っている	13.7	45.7	25.3	11.0	3.5	0.8
(13) 子育てに関する支援や施設が充実している	3.7	21.7	51.5	15.7	5.4	2.1
(14) 子どもの教育内容や教育施設が充実している	3.9	22.2	50.5	16.0	5.4	2.0
(15) 音楽、美術などの芸術鑑賞や文化活動の機会が多い	6.5	28.0	35.6	21.4	7.2	1.3
(16) 図書館、博物館、文化施設などが充実している	9.7	37.2	32.6	15.0	4.1	1.4
(17) 歴史と伝統がある	27.2	47.4	17.4	4.7	1.9	1.4
(18) スポーツ施設が多く利用しやすい	4.9	21.7	44.4	21.3	6.1	1.6
(19) 住居と職場(学校)が近く通勤(通学)に便利である	15.1	36.6	28.6	11.8	5.5	2.4
(20) 物価が安く生活しやすい	4.8	24.3	42.1	19.5	8.3	0.9
(21) 商業が盛んで活力を感じる	1.5	9.7	34.4	36.9	16.3	1.1
(22) 農業を身近に感じる	16.9	38.2	23.6	15.0	5.2	1.0
(23) 魅力ある企業が多い	1.3	7.3	42.5	32.8	14.7	1.4
(24) 祭りや防災訓練など地域の行事が盛んである	2.9	16.4	40.7	28.7	10.2	1.2
(25) 近所の人々の関係がよい	7.0	31.6	38.8	13.8	6.9	1.1
(26) 水戸市に愛着や誇りを感じる	18.0	39.9	27.3	9.0	4.7	0.9
(27) 住みやすいと感じる	23.4	48.9	18.2	5.8	2.8	0.8

読売広告社都市生活研究所の調査による「シビックプライドランキング 2025」より抜粋  
(<https://civic-pride.com/research-report-list/13600/>)

画像  
(著作権の関係により省略)

シビックプライドランキング 2025

【提言 12】「多様な仕事が充実し、達成感をえられるまち」

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・このまちは、若者や子育て世帯が自分のライフスタイルに合った仕事や働き方ができるように、様々な職種や福利厚生が充実しているなど、働きやすい環境が整備されています。市内外からも水戸市に働きに来やすいように、公共インフラが整備され、合同企業説明会も行われています。
- ・このまちの人々は仕事とプライベートを両立してバランス良く暮らしています。若者が働くときには、フレックスタイム制や時差出勤などの時間の融通が利く制度を活用して、個々のライフスタイル等に合わせて働く時間や場所を自ら選択できるような、「柔軟な働き方」をしています。
- ・このまちでは、やりたい仕事に就き達成感ややりがいを得ながら、プライベートも充実して豊かに楽しく暮らせるので、皆から選ばれています。



このまちの魅力の一つは「水戸市に住む若者が仕事もプライベートも楽しめること」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

【課題】

若者が柔軟な働き方をできるようにするため、フレックスタイム制（※）を導入している企業を増やす

※ここでいうフレックスタイム制とは、その日その日で勤務時間を「自ら」決定できるが、一週間単位では規定の労働時間を働かなければならないことをいう。

【課題解決への取組】

企業がフレックスタイム制を導入することに関し、次の場合に該当すれば補助金を交付する。

- ・バーチャルオフィスツールや、プロジェクト・ノウハウ管理ツールなど、その時その場になくても必要な情報交換ができる機材を導入する場合
- ・各々の企業にあった、効果的なフレックスタイムの制度設計や運用の仕方をするために、社会保険労務士や中小企業診断士といった外部の専門家へ相談する場合

これにより、企業のフレックスタイム制導入に伴う、意思疎通や情報交換の難しさ等の短期的な問題を解消し、効率的な企業運営を実現して、長期的な利益の確保を期待する。

フレックスタイム制の導入後、業務効率や利益の向上がみられ、他社が追従できるようなモデルケースを構築した企業には報奨金を出す。

これにより、企業がフレックスタイム制をただ導入するだけでなく、どうすれば自由な働き方をしつつ、効率を落とさないかを自発的に工夫する動機付けを図る。

なお、報奨金の交付を決定するにあたっては、その企業自体を表彰することが目的ではなく、フレックスタイム制を広めるという公益性に従い企業を選定することに留意する。

企業の経営者を対象に、フレックスタイム制を導入して利益をあげた企業を発表者とするセミナー・座談会を開催する。

こうして実際の企業の成功事例を聞き、従業員自らが勤務時間を決定しながらも意思疎通・情報交換を行う方法など、より効果的なフレックスタイム制の運用の仕方を知ることによって、フレックスタイム制の導入と、企業の長期的な利益獲得を期待する。

参考資料

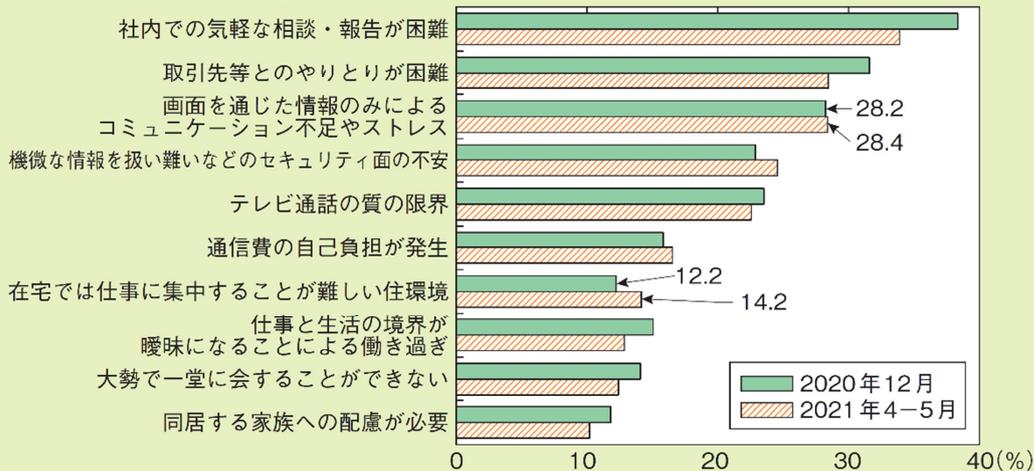
第3-1-10図 テレワークによる生産性の変化とデメリット

テレワーク時の意思疎通や情報交換の難しさにより、主観的な労働生産性は低下

(1) 生産性の変化

(単位 %)	低下	上昇	変化なし	低下-上昇 (DI)
内閣府 第3回 新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査(2021年4/30~5/11)	33.3	11.6	55.1	21.7
パーソル総合研究所(2021年1月)	64.7	16.6	18.6	48.1
JILPT(第三回)(2020年12月)	66.2	12.7	21.1	53.5
森川論文(2020年6月)	82	18	—	—
リクルート(2020年4~5月)	25.1	9.1	65.7	16

(2) テレワークのデメリット



上図はテレワークに関するデータだが、テレワークのデメリットとして、意思疎通や情報交換の難しさにより、主観的な労働生産性が低下するとした調査がある。

これは一定程度フレックスタイム制にも共通していると推測される。

令和3年度経済財政白書(3章)から：[https://www5.cao.go.jp/j-j/wp/wp-je21/pdf/all\\_03.pdf](https://www5.cao.go.jp/j-j/wp/wp-je21/pdf/all_03.pdf)

### 【提言 13】「若者が住み続けたいと思えるまち」

#### 【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・このまちは、水戸で大学進学や就職を考えている人が暮らしやすいように、進学先や就業先が豊富にあり、その情報を集約したポータルサイトがある。生活面では、歩行者が安全に歩けるように環境が整備されている。
- ・このまちの若者は、自分の求めている働き方を確立し、自分やってきたことや大学で取得した資格を生かせる会社に就職し、地域で活躍しています。休みの日にはイベントで自らのアイデアや商品を提供することで自己肯定感を向上させ、主体的に生活を送るモチベーションを保っています。
- ・このまちでは、若者が進学すること、働くこと、社会に出て行くことへの不安がなく、将来に希望を持って暮らしています。このまちなら、自分らしくより自由で幸福な人生を送れると思えるので、皆から選ばれています。



このまちの魅力の一つは「学生や労働者が安心して生活できるまち」であり、ここではこれの一つ目の目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

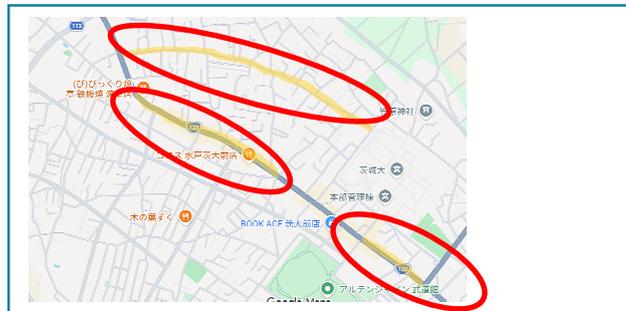
#### 【課題】

生活圏の道を街灯で明るくするため、渡里町一袴塚3丁目間への対策を行う

#### 【課題解決への取組】

国道123号線や常磐2号線において、車を持たない学生の通行が多い以下の地点に、省エネルギーで広範囲を照らすことができるLED街灯を設置する。

なお、国道123号線については、道路管理者への働きかけを行う。



防犯灯補助金制度の周知方法を以下のように変更し、より積極的に活用されるようにする。

配布・市役所等の公共施設におけるポスター掲示・公式LINEでの通知等

私が望む街灯のイメージ

写真  
(著作権の関係により省略)

街灯イメージ例 (対馬市厳原大町通り)

写真  
(著作権の関係により省略)

街灯イメージ例 (行田市役所周辺)

対馬市厳原大町通り  
<https://lsd.or.jp/work/spot/example5-2/>

行田市役所周辺  
<https://www.iwasaki.co.jp/projects/examples/detail/id/rgr42/cid/1/sid/3/>

このまちの魅力の一つは「学びたい人が自己実現できるまち」であり、ここではこれを二つ目の目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

**【課題】**  
アクセスが良い場所に大きな学習スペースをつくるため、水戸駅南周囲500m内に学習スペースをつくる

**【課題解決への取組】**  
個人で集中して学習できる仕切り付きの座席と、友人や仲間と協働して作業ができる共同学習スペースの整備を進める。  
学生や就労者が放課後や業務終了後にも利用しやすいよう、駅南中央通りの明るく人通りの多い大通り沿いに設置する。



京都府立 京都学・歴彩館  
<https://rekisaikan.jp/guide/>



兵庫県立神戸生活創造センター  
<https://kobe-sozoc.com/>

このまちの魅力の一つは「趣味や仕事などに主体的に取り組む人が生きがいを実感できるまち」であり、ここではこれを三つ目の目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

#### 【課題】

まちなかマーケット（※）で他者への発信や交流が気軽に行えるようにするため、開催手続きを簡素化・明確化する。

※ここでいう「まちなかマーケット」とは、Mitori0をはじめとする市中心街において、市民が主体となり発信や商品販売を行う催しである。まちなかを通りがかる人々が、自由に観覧や商品を購入することができる。

#### 【課題解決への取組】

まちなかマーケットを開催する際に必要となる諸手続き（公共施設の使用許可、交通規制関係、補助金など）について、手続きを一元的に相談・申請できる窓口を設置し、市民が円滑にイベントを開催できる体制を整備する。

## 【提言 14】「誰もが主役になれるまち」

### 【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・このまちは、若者から高齢者までどの世代も好きなことを楽しめる環境が整っています。借楽園や千波湖では季節ごとのライトアップや映画の野外上映が行われています。夜間も安全に歩いたりランニングができるように街灯も整備されています。また、市民がイベントに出店しやすいように備品の貸し出しや出店者向けの講演会などもあります。
- ・多彩なイベントに市民は客としてだけでなく運営側としても参加しています。イベントを通して多世代の人々が自然に交流し、移住者もまちの人たちと交流するきっかけになっています。
- ・このまちでは高齢者は生き生きと暮らし、若者は地域への愛着が生まれることで水戸に住み続けよう思うようになっています。誰もが水戸に郷土愛を持ち、ここで暮らし活躍したいと思うので皆から選ばれています。



このまちの魅力の一つは「誰でも地域に愛着を持てるまち」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

### 【課題】

自分の好きなイベントに参加できるように、出店準備の負担軽減を図る

※出店準備の負担とは主に以下のことをいう。

- ・商品の選定とメンテナンス
- ・価格設定
- ・釣銭などの必要な持ち物
- ・集客の仕方
- ・トラブルの対処方法

### 【課題解決への取組】

フリマの経験者をホームページや SNS を用いて集め、フリマのノウハウを教えてくれる地域住民を登録し、フリマを開催したい人への仲介をする。

トラブル防止のためにフリマの経験者の協力を得て“公式のガイド”を作る。売ってもよい物と良くない物を、分かりやすく動画や漫画などで示す。

(参考) フリーマーケット・マルシェ・クラフトフェア・蚤の市ガイド | ふむふむ JP (はじめてのフリマ Q&A)

<https://fvmf.jp/regular/detail/471#:~:text=%E5%80%A4%E6%AE%B5%E3%81%AF%E4%BA%8B%E5%89%8D%E3%81%AB%E3%81%A4%E3%81%91%E3%81%A6,%E3%81%AE%E3%83%A1%E3%83%B3%E3%83%86%E3%83%8A%E3%83%B3%E3%82%B9%E3%82%82%E4%B8%87%E7%A8B%AF%E3%81%AB%EF%BC%81>

## 【提言 15】「若者が定着しやすく活気がある街」

### 【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・このまちは、人と人の交流が盛んで人とまちがつながっていると感じられるまちです。四季折々の自然豊かな偕楽園や千波湖、千波公園、カフェや飲食店が集まる大工町や南町、市民会館など人々が集まるところが市内にたくさんあります。また大学生や若者が就職したり起業しやすいように企業説明会や起業支援の場もあります。
- ・水戸に集まってきた人々は、イベントに参加しながら交流を楽しんでいます。またこうしたイベントを支えるボランティア活動も盛んに行われ、若者と多世代の交流も生まれています。このまちの若者は地元で就職したり、水戸で起業しています。
- ・このまちは、コミュニケーションによってお互いの価値観や考え方を共有でき、多様性や活気生まれているまちです。若者も日々楽しく暮らすことができ、若者を始めとした市民が生き生きとしていることが魅力となり、皆から選ばれています。

このまちの魅力の一つは「学生から 20 代 30 代の人々が楽しくて活気のあるまち」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

### 【課題】

好きなゲームイベントを開催できるように、アクセス性の良い場所に専用の機材を導入する。

### 【課題解決への取組】

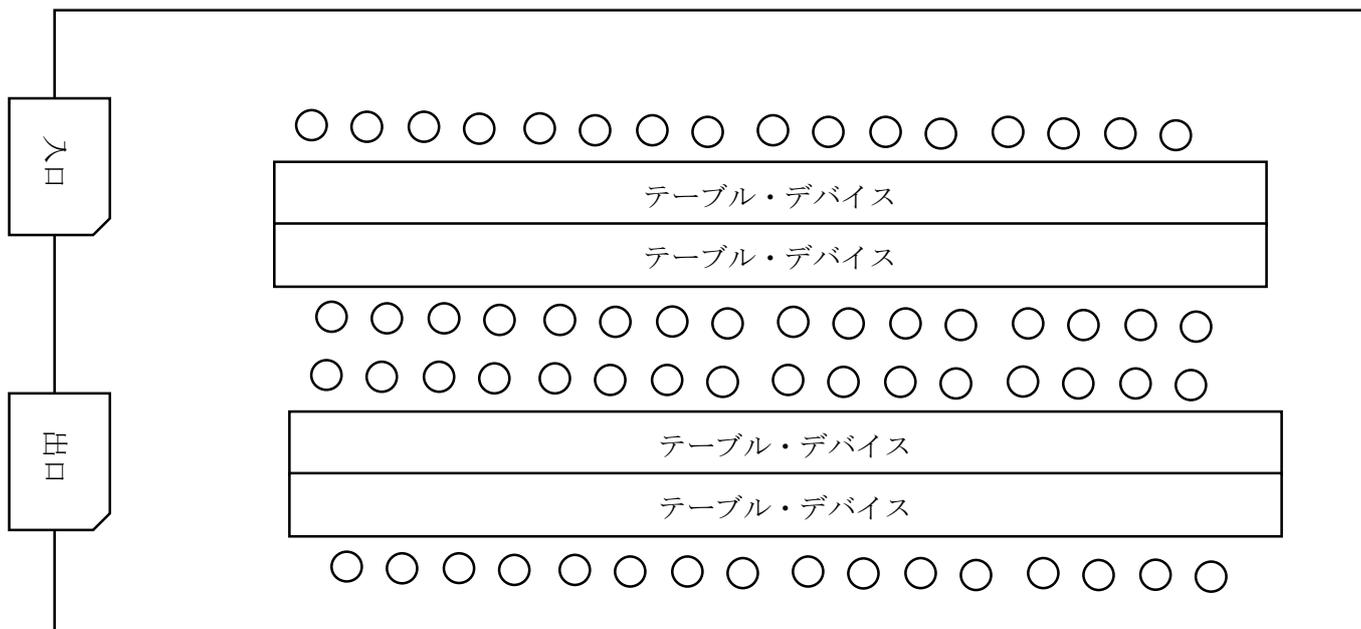
ゲームイベントで使うモニター画面、ゲーミング PC を各 50 台ずつ市民会館に設置する。

※参加者 100 人規模のイベントを想定。

イベント参考イメージ

写真

(著作権の関係により省略)



イメージ図

- ・市民会館の会議室（中～大）は，電源の確保が可能で，PCやモニターを並べるのに最適である。また，レイアウトの自由度の高さもある。
- ・仮設でスタートし，好評なら常設化する。

## 【提言 16】「若者が住み続ける，帰ってくる水戸市」

### 【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・このまちには，若者（大学生）が住み続けたいくなる，戻ってきたいくなるような環境が整っています。市内及び県内にはさまざまな業界，業種，職種の就職先があり，地元企業に絞った企業説明会なども行われています。生活する中で必要不可欠なスーパーや都市銀行や地方銀行の支店，郵便局などが自宅や大学から近いところにあり，余暇の時間を過ごせる偕楽園や護国神社，歴史館などもあります。
- ・若者はこうした環境があることによって，水戸で快適に暮らすことができ，大学卒業後も働きながらこのまちで暮らしています。休みの日には水戸ならではのイベントや場所に出かけ，水戸での楽しい思い出を作っています。
- ・このまちの若者にとって，水戸は住みやすく，働く場所があり，友人や家族とも距離的に近いところにつながれているので，安心して暮らせる場所になっている。これらのことから，水戸に住みたいと思う人が増えるので，皆から選ばれています。



このまちの魅力の一つは「県外から転入してきた若者が水戸市に愛着を持ち住み続けたいくなるまち」であり，ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

### 【課題】

水戸市でしか体験できないイベントの情報を得られるように，土地勘の低い人の目につくPRを行う。

### 【課題解決への取組】

駅構内，郵便局，銀行は，県外から転入してきたような土地勘のない若者でもよく立ち寄る場所であるため，そこに市内で行われている季節のイベントのポスターを貼る。

あえてアナログな方法をとることで，情報を得る方法が分からない人にも届くようにする。

# 資料

## 出典・引用文献等

### 【提言 2】負担のない出産・子育てができるまち

こどもふっかパーク（深谷市こども館）

<https://www.city.fukaya.saitama.jp/soshiki/kodomomirai/seishonen/tanto/kodomokan/16506.html>

つくばみらい市産後ケア事業

<https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/jyumin/ninshin-shussan-kosodate/sango/page001662.html>

### 【提言 3】もう一人産めるまち

「産科診療所の経営状況と今後の事業継続の見込み」に関する調査結果

<https://www.mhlw.go.jp/content/12401000/001453647.pdf>

### 【提言 6】生涯活躍し続けられるまち

としま産業振興プラザ

<https://www.toshima-plaza.jp/facilities/>

[ダンススタジオ：ミュージック昭和 | 山形の音楽専門店・ミュージック昭和]

<https://www.musicshowa.co.jp/session/dance>

水戸市市民会館 <https://www.mito-hall.jp/outline/lounge.html>

### 【提言 7】地域コミュニティが相互作用しあうコンパクトな範囲でも暮らしやすい水戸

デジタルサイネージ画像の出典元 URL

[https://documents.signage.ricoh/casestudy/RDS\\_CaseStudy.pdf](https://documents.signage.ricoh/casestudy/RDS_CaseStudy.pdf)

神戸市新長田合同庁舎 1 階のフリースペース活用事例

<https://kodomotto-kobe.jp/article/explain/0028.html>

参考地図 <https://mitokoumon.com/pamphlet/>

宇都宮の次世代型路面電車（L R T）

<https://u-movenext.net/about/>

山形県鶴岡市市内循環バス

[https://www.shonaihotsu.jp/local\\_bus/tsuruoka\\_shinaijunkan.html](https://www.shonaihotsu.jp/local_bus/tsuruoka_shinaijunkan.html)

佐賀県伊万里市の市民センター活用事例

<https://mainichi.jp/articles/20220809/ddl/k41/040/386000c>

### 【提言 8】どんな人でも動物や植物を身近に感じられる環境

#### 動物も人間も過ごしやすい街「アニマルタウン」

「夏休み動物王国 in 京成百貨店」 <https://www.mitokeisei.co.jp/event/9475/>

### 【提言 9】若者からの魅力度 No. 1 のまち

ヒューマンホールディングスが 2024 年全国の働く 20～28 歳を対象に実施した「仕事観と自分らしさに関する調査」（回答数 1000 名） <https://www.athuman.com/news/2024/19779/>

### 【提言 10】 場所・人・お金が循環する水戸

あそべるとよたプロジェクト <https://asoberutoyota.com/>

【花時計公園で集客イベントを開催する皆様へ】公園利用申請をワンストップ化します

<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/75/174410.html>

### 【提言 11】 市民一人ひとりが推せるまちづくり～余白のある日常を、あなた色に～

水戸市「－あなたと描く水戸の未来－市民1万人アンケート」

[https://www.city.mito.lg.jp/uploaded/life/37177\\_65869\\_misc.pdf](https://www.city.mito.lg.jp/uploaded/life/37177_65869_misc.pdf)

読売広告社都市生活研究所の調査による「シビックプライドランキング 2025」(<https://civic-pride.com/research-report-list/13600/>)

### 【提言 12】 多様な仕事が充実し、達成感をえられるまち

令和3年度経済財政白書(3章)から：[https://www5.cao.go.jp/j-j/wp/wp-je21/pdf/all\\_03.pdf](https://www5.cao.go.jp/j-j/wp/wp-je21/pdf/all_03.pdf)

### 【提言 13】 若者が住み続けたいと思えるまち

対馬市厳原大町通り <https://lsd.or.jp/work/spot/example5-2/>

行田市役所周辺 <https://www.iwasaki.co.jp/projects/examples/detail/id/rgr42/cid/1/sid/3/>

京都府立 京都学・歴彩館 <https://rekisaikan.jp/guide/>

兵庫県立神戸生活創造センター <https://kobe-sozoc.com/>

### 【提言 14】 誰もが主役になれるまち

フリーマーケット・マルシェ・クラフトフェア・蚤の市ガイド | ふむふむ JP (はじめてのフリマ Q&A)

<https://fmm.jp/regular/detail/471#:~:text=%E5%80%A4%E6%AE%B5%E3%81%AF%E4%BA%8>

[B%E5%89%8D%E3%81%AB%E3%81%A4%E3%81%91%E3%81%A6,%E3%81%AE%E3%83%A1%](https://fmm.jp/regular/detail/471#:~:text=%E5%80%A4%E6%AE%B5%E3%81%AF%E4%BA%8)

[E3%83%B3%E3%83%86%E3%83%8A%E3%83%B3%E3%82%B9%E3%82%82%E4%B8%87%E7%A](https://fmm.jp/regular/detail/471#:~:text=%E5%80%A4%E6%AE%B5%E3%81%AF%E4%BA%8)

[B%AF%E3%81%AB%EF%BC%81](https://fmm.jp/regular/detail/471#:~:text=%E5%80%A4%E6%AE%B5%E3%81%AF%E4%BA%8)

### 【提言 15】 若者が定着しやすく活気がある街

イベント参考イメージ [https://note.com/yuki\\_39390321/n/na85ad2561b35](https://note.com/yuki_39390321/n/na85ad2561b35)

## 市政モニター活動内容

### 令和7年4月25日（金） 市政モニター委嘱状交付式及び市政モニター事業説明会

#### 【委嘱状交付式】

- ・委嘱状交付
- ・市長あいさつ

#### 【事業説明会】

- ・水戸市からの説明
  - 「市政モニター及び今後の流れ等について」 市民相談室
  - 「水戸市の概要について」 政策企画課
- ・質疑応答等

### 令和7年5月23日（金） 第1回市政モニター提言書作成会議

#### 【会議内容】

- ・水戸市からの説明
  - 「市政モニター提言書作成会議について」 市民相談室
  - 「水戸市が皆から選ばれるまちづくりについて」 政策企画課
  - 「市政モニター提言書作成マニュアルについて」 市民相談室

### 令和7年7月8日（火） 第2回市政モニター提言書作成会議

#### 【会議内容】

- ・いきいき出前講座
  - 「水戸の都市計画～これまでとこれから～」について
- ・意見交換等
  - 「水戸市が皆から選ばれるまちづくりについて」

### 令和7年9月16日（火） 第3回市政モニター提言書作成会議

#### 【会議内容】

- ・意見交換等
  - 「水戸市が皆から選ばれるまちづくりについて」

### 令和7年11月20日（木） 第4回市政モニター提言書作成会議

#### 【会議内容】

- ・意見交換
  - 「提言の発表について」
  - 「提言書（案）について」

令和8年1月21日（水） 第5回市政モニター提言書作成会議

【会議内容】

- ・「提言の発表について」

令和8年2月16日（月） 市政モニター提言書発表会

【会議内容】

- ・提言書の提出

市政モニター会議の様子

